

第280回 日本循環器学会関東甲信越地方会

日	時	令和8年6月13日(土)
会	場	ステーションコンファレンス東京 5・6階 (千代田区) 第Ⅰ会場 (503CD) ※LIVE配信会場 第Ⅱ会場 (503AB) 第Ⅲ会場 (501A) 第Ⅳ会場 (501B) 第Ⅴ会場 (602AB) 第Ⅵ会場 (602CD) サマースクール/ハンズオン会場 (605BC) リフレッシュモニタールーム (604) PCセンター (501S) 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー4～6階 TEL 03-6888-8080
会	長	日本医科大学武蔵小杉病院 救急・総合診療センター 総合診療科 日本医科大学 総合医療・健康科学 塚田(哲翁) 弥生

御案内

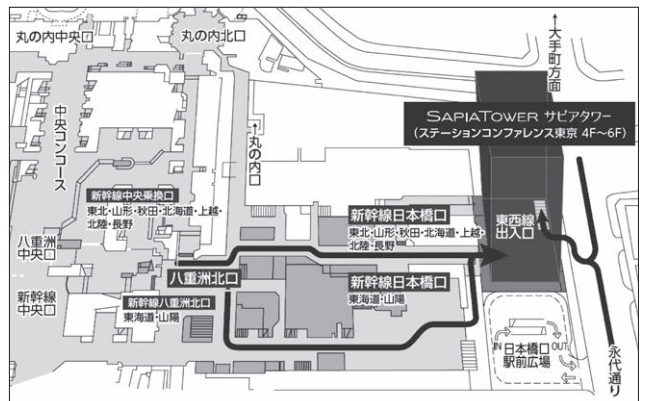
第Ⅰ会場のみLIVE配信を行います。参加の際は事前参加登録にご協力ください。詳細は地方会HPをご確認ください。

- 参加費：会員/非会員(医師) 3,000円
後期研修医、メディカルスタッフ 1,000円
初期研修医、医学部学生 無料
※当日、受付にて初期研修医証明書、学生証をご提示下さい。
- 受付時間：参加受付 8:30-18:30
PCセンター 8:30-17:30
- 一般演題発表時間：口演5分、討論2分
- Award：Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Awardを設け、各Award最優秀賞、優秀賞を顕彰いたします。
選考委員による第一次書類審査による選考後、地方会当日口述発表による第二次審査で審査委員から発表者に対し質疑応答を行います。(口演6分、討論4分)
Student Award：第Ⅱ会場：16:00-16:50
Resident Award：第Ⅱ会場：17:00-18:00
Case Report Award：第Ⅴ会場：16:00-16:50
Clinical Research Award：第Ⅴ会場：17:00-17:50
なお、以下の項目が審査の対象となります。
 - 正しい医学用語の使用
 - 発表時間の厳守と態度
 - 考察
 - 質問に対する応答
 - 循環器臨床に対する貢献度表彰式は評議員会終了後に評議員懇親会で行います。
- その他：会場内では携帯電話のスイッチはお切りいただくかマナーモードに設定して下さい。
また、講演中の写真撮影はご遠慮下さい。

次回地方会：第281回地方会は次の通りです。

日時：令和8年9月26日(土)
会場：ステーションコンファレンス東京(千代田区)
会長：日比 潔
(横浜市立大学 医学部 循環器内科学)

ステーションコンファレンス東京 案内図



交通のご案内

【JR線・東京メトロ】

- 「東京駅」日本橋口(新幹線専用改札口) 徒歩1分
- 八重洲北口改札口 徒歩2分
- 東京メトロ東西線「大手町駅」B7出口から直結

託児サービスのご案内：

日本循環器学会関東甲信越支部では、地方会へのご参加の利便を図るため託児サービスを行っております。

評議員会：地方会終了後、第Ⅰ会場で行います。

(懇親会は5階フロアにて行います。)

ご挨拶

第280回日本循環器学会関東甲信越地方会

会長 塚田（哲翁） 弥生

日本医科大学武蔵小杉病院 救急・総合診療センター 総合診療科/
日本医科大学 総合医療・健康科学

この度、第280回日本循環器学会関東甲信越地方会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今回のメインテーマには、今の私たちが最も向き合うべき課題として「**次世代に繋ぐ循環器診療**」を掲げました。現在、循環器領域を志す若手医師の減少が大きな課題となっており、このままでは日本の循環器医療そのものの「持続可能性（サステナビリティ）」が揺らぎかねません。情熱を持ってこの領域に飛び込んでくれる次世代をいかに育み、未来へバトンを繋いでいくか。それは、私たち現役世代に課せられた大切な使命であると感じています。

本地方会では、この持続可能な未来を築くためのヒントとなるような、多角的なプログラムを用意いたしました。従来の臨床知見に加え、「気候変動」が救急医療に与える影響や、患者さんの生活の根幹にある「SDOH（健康の社会的決定要因）」を考えるセッションは、病気だけでなく「人を診る」という循環器診療の奥深さを再確認する機会となるはずです。また、これからの武器となる「AI活用」や、最新の「遺伝診療」など、若手からベテランまでが知的好奇心をかき立てられるような学びの場を目指しました。

さらに、今回は医学生や研修医の皆さんを対象とした「**サマーセミナー**」を同時開催いたします。地方会の醍醐味は、地域の先生方と若手が顔の見える距離で集い、直接語り合える温かさにあります。このセミナーを通じて、循環器診療のダイナミズムを肌で感じ、一人でも多くの若者が「この道に進みたい」と思ってくれることを切に願っています。

伝統ある本会も今回で280回を数えます。節目となる今大会を、280回目の地方会にして初めての女性会長としてお引き受けするにあたり、いつもと異なる華やかで多様な循環器学会地方会をご期待ください。関東甲信越の各地から、皆様にお会いできることを心より楽しみにしております。

【発表者の方へ】

発表はすべてPCプレゼンテーションとなりますので、二次元コードより要領をご確認の上、ご発表の30分前までにPCセンターへお越し下さい。



第280回 日本循環器学会関東甲信越地方会

日時：令和8年6月13日（土）

会場：ステーションコンファレンス東京 5・6階（千代田区）

会長：日本医科大学武蔵小杉病院 救急・総合診療センター 総合診療科/日本医科大学 総合医療・健康科学 塚田（哲翁）弥生

第I会場		第II会場		第III会場		第IV会場	
8:50	開会挨拶						
9:00	会長企画セッション I 劇症型心筋炎の トータルマネジメント 演者：河野 隆志 志賀 太郎 平山 浩章 浅見 慎思 服部 英敏	9:00	一般演題 1 大動脈/静脈/末梢血管 P9	9:00	一般演題 3 不整脈 1 P14	9:00	一般演題 8 虚血性心疾患 1 P19
10:30	P6	9:45		9:35		9:45	
10:40	教育セッション I (日本循環器学会・日本脳卒 中学会・日本救急医学会 ジョイントセッション) 「気候変動と救急医療を考 える」 演者：橋爪 真弘 神田 潤 田中 亮太	9:55	一般演題 2 心臓・腫瘍/腫瘍循環器 P10	9:40	一般演題 4 不整脈 2 P14	9:50	一般演題 9 虚血性心疾患 2 P19
12:10	P7	10:25		10:15		10:35	
12:20	ランチョンセミナー 1 4量体安定化薬導入後の病勢評 価：Global Standardと、エビデ ンスの狭間で期待される臨床視点 演者：吉江 幸司	10:40	循環器病対策推進セッション 脳卒中・心臓病等総合支援 センターモデル事業 演者：藤本 茂 松浦 朋美 桑原 宏一郎	10:20	一般演題 5 心筋炎・心筋症 1 P15	10:45	一般演題 10 虚血性心疾患 3 P20
13:10	共催：アレクシオンファーマ P7	12:10	P10	10:55		11:30	
13:20	教育セッション II 次世代に繋ぐ循環器遺伝診療 演者：川端 美穂子 福嶋 佳菜子 後藤 景子 稲垣 夏子	12:20	ランチョンセミナー 2 心臓突然死のリスク上昇を捉え るAIモデルと、それを活用した 見守りサービスについて 演者：石見 拓	11:00	一般演題 6 心筋炎・心筋症 2 P16	11:40	一般演題 11 全般的問題/地域医療/その他 P21
14:50	P7	13:10	共催：セコム P10	11:35		12:10	
15:00	デザートセミナー 1 循環器医におけるCKD治療と SGLT-2阻害薬 演者：重城 健太郎 共催：日本ベリンガーインゲ ルハイム	13:20	心不全療養指導士セッション (チーム医療委員会 企画セッション) 多様な職種から心不全の療 養指導を行う 演者：中島 美知穂 安形 知弥子 高畑 幸弘 江幡 佳澄 水谷 美緒	11:40	一般演題 7 心内膜炎 P16	12:20	ランチョンセミナー 4 -左心耳とじて、未来をひらく- [WATCHMAN FLX Pro 左心耳閉鎖術] 演者：山口 航平、高橋 良英 共催：ホストン・サイエンティフィックジャパン P21
15:50	P8	14:50	P11	13:10	共催：Alnylam Japan P17	13:20	会長企画セッション II 「その生成AI、どう使う？ — 若手医師のための実践的 AI活用」 演者：福島 裕介 三澤 将史 P22
16:00	プロモーションビデオコンペティション(地 方会あり方検討委員会企画セッション) 「ばくらの医局物語」 座長：上妻 謙 塚田（哲翁）弥生 審査委員：青木 二郎 高橋 佐枝子 鈴木 伸明 原 英彦	15:00	デザートセミナー 2 心血管アウトカムの視点から考 えるGLP-1受容体作動薬 演者：嵐 弘之 共催：ノボ ノルディスク ファーマ P11	13:20	第27回ダイバーシティ・ フォーラム	14:50	デザートセミナー 4 症例から考える—心臓突然死リ スクと予防の実際 演者：林 英守 筒井 健太 共催：日本メドトロニック P22
17:00	P8	15:50	P11	15:00	デザートセミナー 3 ATTR-CM診療 最新知見 演者：松下 純介 遠藤 仁 共催：ファイザー P18	15:00	デザートセミナー 7 肥大型心筋症 演者：田中 旬 小板橋 紀通 共催：プリストル・マイヤーズ スクイブ P22
17:10	社会疫学統計セミナー 健康の社会的決定要因 (SDOH)へのアプローチ 演者：近藤 尚己	16:00	Student Award P11	16:00	デザートセミナー 6 循環器疾患患者さんで注意すべ き感染症：その疾病負荷 演者：東條 美奈子 共催：グラクソ・スミスクライン P18	16:00	
18:10	閉会挨拶	17:00	Resident Award P12	16:50		16:50	
18:15	評議員会	18:00		17:00			

【専門医単位登録に関して】

専門医単位に関するセッション（地方会参加単位、教育セッション）は、セッション開始前に単位登録手続デスクへお越しくださいませうお願い申し上げます。

セッション終了後には単位のご登録ができないためご注意ください。

また地方会参加単位登録（5単位）、教育セッション（3単位）はそれぞれ単位の登録手続きを行っていただく必要がございます。

■「地方会参加単位」（5単位）受付時間 9:00～18:10（開催終了まで）

■「教育セッション」（3単位）受付時間 10:10～11:40/12:50～14:20（開始30分前から終了30分前まで）

第V会場		第VI会場		サマースクール/ハンズオン会場	リフレッシュモニタールーム
9:00	一般演題 1 2 不整脈 3 P23	9:00	一般演題 1 4 弁膜症 1 P28		9:00
9:30		9:35		9:30	循環器サマースクール 命を救う仕事 君も循環器医師にならないか 総合同会： 播磨 綾子 先生 ファシリテーター： 高山 亜美 先生 池上 龍太郎 先生 堀越 健生 先生 能見 英智 先生 阿部 遼 先生 蛭間 貴司 先生 高橋 伸弥 先生 心臓カテーテル体験、AED体験、心エコー体験、人工心臓・補助循環シミュレーター 協賛： テルモ株式会社、GEヘルスケア・ジャパン株式会社、レールダールメディカルジャパン株式会社、ニプロ株式会社、榊原記念病院 P33
9:50	一般演題 1 3 デバイス P23	9:50	一般演題 1 5 弁膜症 2 /先天性 P28		
10:20		10:25			
10:40	ベストティーチャー生LIVE-Part 3- (地方会あり方検討委員会企画セッション) 「画像診断を語る ー虚血性心疾患の非侵襲的画像診断と心不全のMRIを中心とした画像診断ー」 演者：鍋田 健 石井 秀樹 P24	10:40	会長企画セッションⅢ 臨床に役立つ心臓解剖 演者：井川 修 P29		
12:10		12:10			
12:20	ランチョンセミナー 5 肥満症 演者：清末 有宏 共催：日本イーライリリー / 田辺ファーマ P24	12:20	ランチョンセミナー 6 「心原性ショック治療のその先に～LVAD施設とどう連携する？～」 演者：佐藤 新之介、服部 英敏 共催：ニプロ/アボットメディカルジャパン P29	12:30	
13:10		13:10			
13:20	学術委員会企画セッション ACHDガイドライン； 実臨床への橋渡し 演者：山岸 敬幸 相馬 桂 小板橋 俊美 椎名 由美 P25	13:20	基礎×臨床 高齢者心不全を“筋”と“免疫”から再定義する 演者：末永 祐哉 加藤 祐子 大石 由美子 P30	13:30	リフレッシュ モニタールーム
14:50		14:50			
15:00	デザートセミナー 5 慢性心不全とMRA 演者：伊地知 健 共催：バイエル薬品 P25	15:00	一般演題 1 6 肺高血圧・肺塞栓症 P30		
15:50		15:45			
16:00	Case Report Award P25	16:00	一般演題 1 7 外科的治療 P31		
16:50		16:30		16:30	エコーハンズオン Dr.泉のエコーハンズオン(仮) 講師：泉 佑樹 先生 (榊原記念病院 循環器内科) 協賛：GEヘルスケア・ジャパン P35
17:00	Clinical Research Award P26	16:40	会長企画セッションⅣ 大動脈疾患フロンティア ー診断・内科治療・外科治療の最前線 演者：関根 鉄朗 坏 宏一 保科 克行 P32		
17:50		18:10			18:10

第 I 会場

会長企画セッション I

9:00-10:30

座長 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科) 岩田 洋

座長 (日本医科大学付属病院心臓血管集中治療科) 中田 淳

劇症型心筋炎のトータルマネジメント

劇症型心筋炎は、ウイルス感染や自己免疫反応等により心筋に炎症が生じ、臓器灌流障害を伴う重症心不全を来す重篤な疾患です。循環器内科医にとって必ずや一度は遭遇する疾患でありながら、系統立てて学ぶ機会は少なく、適切な診断や治療および重症心不全管理を識っておくことが重要です。本セッションは、2023年改訂版 心筋炎の診断・治療のガイドライン、最近のトピックスである免疫チェックポイント阻害薬投与後の自己免疫性心筋炎 (irAE)、初期診断時の ECG 上を用いた重症度評価、血行動態評価や経皮的補助循環 (ECPPELLA etc.) 治療、さらに中長期管理における VAD/心移植を含めた重症心不全の出口戦略について、参加者全員で学ぶ機会になればと考え企画しました。

劇症型心筋炎の診断・治療 -ガイドラインを踏まえて-

(杏林大学医学部付属病院循環器内科) 河野 隆志

劇症化することがある免疫チェックポイント阻害薬によるirAE心筋炎について

(がん研究会有明病院腫瘍循環器・循環器内科) 志賀 太郎

劇症型心筋炎における12誘導心電図と重症化予測

(日本医科大学付属病院循環器内科) 平山 浩章
岩崎 雄樹、浅井 邦也
(日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科) 岡 英一郎

劇症型心筋炎に対する治療選択と血行動態指標に基づく機械的補助循環管理

(日本医科大学付属病院心臓血管集中治療科) 浅見 慎思
中田 淳、脇田 真希、澁谷 淳介、木村 徳宏、
宮地 秀樹、山本 剛
(日本医科大学循環器内科) 浅井 邦也

劇症型心筋炎に対する出口戦略

(東京女子医科大学循環器内科) 服部 英敏
大藪謙次郎、菊池 規子、春木伸太郎、南 雄一郎、
山口 淳一
(東京女子医科大学心臓血管外科) 市原 有起、新浪 博士
(東京女子医科大学大学院重症心不全制御学) 布田 伸一

教育セッション I (日本循環器学会・日本脳卒中学会・日本救急医学会ジョイントセッション)

10:40-12:10

座長 (日本医科大学付属病院循環器内科) 岩崎 雄樹

座長 (日本医科大学武蔵小杉病院救急・総合診療センター総合診療科) 塚田(哲翁)弥生

「気候変動と救急医療を考える」

本セッションは「気候変動と循環器疾患」をテーマに、日本循環器学会、日本救急医学会、日本脳卒中学会の三学会合同によるジョイントセッションとして開催いたします。基調講演には、本領域の第一人者として研究を牽引されている橋爪真弘先生をお招きし、最新の疫学的エビデンスと適応策についてご講演を賜ります。気候変動が心血管疾患や脳卒中、熱中症に与える影響を多角的に議論し、今後三学会が緊密に連携してこの喫緊の課題に取り組むための展望を拓くことが本企画の大きな目的です。本セッションはLIVE配信を通じて全国の先生方へ広く発信いたします。領域を超えた英知を結集し、持続可能な医療の構築に向けた新たな一歩となることを目指します。

気候変動と循環器疾患：疫学的エビデンスと適応策

(東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学) 橋爪 真弘

熱中症の臨床研究と社会実装 (日本救急医学会から)

(日本医科大学武蔵小杉病院集中治療科) 神田 潤

気候変動と脳卒中：脳卒中リスクに与える影響とその対策 (日本脳卒中学会から)

(自治医科大学付属病院脳卒中センター/脳神経内科) 田中 亮太

ランチョンセミナー 1

12:20-13:10

共催：アレクシオンファーマ合同会社

座長 (新潟大学大学院医歯保健学研究科循環器内科学) 猪又 孝元

4量体安定化薬導入後の病勢評価：Global Standardと、エビデンスの狭間で期待される臨床視点

(信州大学医学部循環器内科学教室) 吉江 幸司

教育セッション II

13:20-14:50

座長 (日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科) 丸山 光紀

座長 (国際医療福祉大学大学院遺伝カウンセリング分野) 西垣 昌和

次世代に繋ぐ循環器遺伝診療

循環器医にとって遺伝診療は、これまで先天性QT延長症候群など一部の小児難病を対象とした限られた領域と捉えられてきた。しかし、2022年に肥大型心筋症の遺伝学的検査が保険収載したことなどを契機に、実臨床で遺伝学的検査を検討する機会は着実に増えている。さらに2026年改訂版「遺伝性不整脈の診療に関するガイドライン」に示されているように拡張型心筋症（とくにラミン心筋症）や心房細動などのコモン疾患においても遺伝子・ゲノムの関与が明らかになってきている。今後、すべての循環器医にとって遺伝診療科との連携が不可欠であり、本セッションでは臨床遺伝専門医と遺伝カウンセラーを交えて、その関わり方について議論したいと考える。

市中病院で循環器遺伝性疾患に遭遇するとき～大事なサインを見逃さないために～

(AOI国際病院不整脈先端治療センター) 川端美穂子

若年院外心停止の「なぜ」に向き合う：遺伝カウンセリングの役割

(国際医療福祉大学大学院遺伝カウンセリング分野) 福嶋佳菜子

循環器内科における遺伝診療の現在地とこれから

(順天堂大学医学部附属順天堂医院循環器内科・臨床遺伝外来) 後藤 景子

心筋症症例から学ぶ循環器遺伝診療

(東京医科大学循環器内科学分野/遺伝子診療センター) 稲垣 夏子

デザートセミナー 1

15:00-15:50

共催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
座長（日本医科大学付属病院循環器内科）野間さつき

循環器医におけるCKD治療とSGLT-2阻害薬

SGLT-2阻害薬による『代謝』のリバースリモデリング
(埼玉医科大学総合医療センター心臓内科)

重城健太郎

プロモーションビデオコンペティション（地方会あり方検討委員会企画セッション）

16:00-17:00

座長（帝京大学医学部内科学講座・循環器内科）上妻 謙
座長（日本医科大学武蔵小杉病院救急・総合診療センター総合診療科）塚田(哲翁)弥生
審査委員（聖路加国際病院循環器内科）青木 二郎
審査委員（湘南大磯病院循環器内科）高橋佐枝子
審査委員（帝京大学医学部附属溝口病院第四内科）鈴木 伸明
審査委員（東邦大学医療センター大橋病院循環器内科）原 英彦

「ぼくらの医局物語。」

本セッションでは、日本循環器学会関東甲信越地方会における初の試みとして、各医局が制作したプロモーションビデオを発表・競演します。循環器診療・研究・教育の魅力やチームの雰囲気を映像で伝え、若手循環器医師の将来のキャリア選択に新たな視点を提供することを目的としています。各施設の個性あふれる取り組みをぜひご覧ください。

社会疫学統計セミナー

17:10-18:10

座長（聖路加国際病院循環器内科）水野 篤

健康の社会的決定要因（SDOH）へのアプローチ

循環器疾患の予後は、高度な医療介入のみならず、経済状況や居住環境、社会的孤立といった「健康の社会的決定要因（SDOH）」に深く関わっています。本セミナーでは、社会疫学の第一人者である近藤尚己先生を講師に迎え、SDOHが循環器疾患の発生や増悪にいかに関与しているか、最新の知見を整理します。治療の継続が難しい場合、患者背景に目を向け、多職種によるチーム医療の中で、明日から実践できる具体的な工夫や地域との繋がり方を共に考えます。医師だけでなく、日々患者さんに寄り添うメディカルスタッフの皆様と共に、これからの循環器医療のあり方を探る機会とします。

(京都大学大学院医学研究科社会疫学分野) 近藤 尚己

第Ⅱ会場

一般演題 セッション1 大動脈/静脈/末梢血管

9:00-9:45

座長 (聖隷横浜病院心臓血管センター外科) 乗松 東吾

座長 (東京医科大学病院循環器内科) 手塚 絢子

コメンテーター (東京都済生会中央病院循環器内科) 遠藤 彩佳

Ⅱ-1 単純性イレウスを合併したStanford B型急性大動脈解離の一例
(昭和医科大学藤が丘病院循環器内科) 山内 彰人

Ⅱ-2 症状に乏しく独歩受診したStanford A型急性大動脈解離の2例
(JCHO東京新宿メディカルセンター循環器内科) 中野 莉沙
齋藤 哲也、谷地 絨、檜崎 容史、佐藤 弘典、
下地 由華、坂本 知也、上西 将之

Ⅱ-3 Myh11単一リジン欠失大動脈解離におけるROCK1中心病態と治療標的
(自治医科大学附属病院臨床研究センター TR研究推進部/群馬大学医学部医学科) 奥畑 普賢
富田 翔大
(自治医科大学附属病院臨床研究センター TR研究推進部/自治医科大学附属病院臨床薬理センター)
(自治医科大学) 相澤 健一
永井 良三

Ⅱ-4 胸腔内血腫除去術が奏功した院外心停止massive pulmonary embolismの一例
(東京慈恵会医科大学附属柏病院循環器内科) 太田 雄大
木村 悠、松本 拓也、佐々木 裕、齋藤惠理子、
中山 稜、新島 旭、福島 啓介、横山 正明、
木下 浩司、小武海公明
(東京慈恵会医科大学附属病院循環器内科) 徳田 道史

Ⅱ-5 肺がん術後に合併した肺静脈血栓症に抗凝固療法が有効であった1例
(東京臨海病院初期研修医) 峯宇 惇嘉
(東京臨海病院循環器内科) 園田 和正、右田 昌平、溝渕 公規、向後 隆章、
河内 啓子、野本 和幹
(東京臨海病院呼吸器外科) 神崎 宏哉、牧野洋二郎
(日本大学医学部内科学系循環器内科学分野) 奥村 恭男

Ⅱ-6 PCI後に橈骨動脈閉塞で顕在化した微小血管障害を契機に全身性強皮症と診断された一例
(虎の門病院医学教育部) 清水 裕貴
松下 友哉、西條 朝貴、中村 瞬、小西 明範、
笹島 陽香
(虎の門病院循環器センター内科) 蜂矢 るみ、森瀬 昌裕、大森 奈美、伊東 秀崇、
小宮山知夏、播磨 綾子、新津理英子、山口 徹雄、
西山 信大、藤本 陽、児玉 隆秀

一般演題 セッション2 心臓・腫瘍/腫瘍循環器

9:55-10:25

座長 (国立がん研究センター東病院循環器科) 田尻 和子
座長 (日本医科大学多摩永山病院循環器内科) 齋藤 恒徳
コメンテーター (がん・感染症センター都立駒込病院循環器内科) 北原 康行

II-7 多発性心室性期外収縮の精査で診断された右室流出路血管腫の一例

(日本医科大学武蔵小杉病院心臓血管外科) 前田 基博
坂本俊一郎、村田 智洋、渡邊 嘉之
(日本医科大学付属病院心臓血管外科) 石井 庸介

II-8 急性下肢血栓閉塞に対して施行した血栓吸引で肉腫が検出された1例

(SUBARU健康保険組合太田記念病院心血管センター循環器内科) 梶原 啓吾
加藤 豪浩、湯澤 雅哉、齋藤理香子、渡邊 宏哉、
伊藤 貢世、鮫島 雄祐、福山 千仁、亀田袖妃花、
矢部 顕人、山崎信太郎、武中 宏樹、根本 尚彦、
安齋 均

II-9 短期間で肺血栓塞栓症を繰り返し、抗凝固療法の選択に苦慮した腓体部癌患者の一例

(順天堂大学医学部医学科) 井戸 亮太
(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学講座) 加藤 隆生、秋山 翔、金子 智洋、内藤 亮、
宮崎彩記子、林 英守、南野 徹

II-10 心臓内腫瘍との鑑別が困難であった、アブレーション後遠隔期に三尖弁輪部に形成した器質性血栓の1例

(心臓血管研究所付属病院循環器内科) 井上 健一
大塚 崇之、加藤 祐子、山本 裕子、廣田 尚美、
八木 直治、有田 卓人、鈴木 信也、矢嶋 純二、
山下 武志、上嶋 徳久、及川 裕二
(心臓血管研究所付属病院心臓血管外科) 佐々木花恵、宮本 陽介

循環器病対策推進セッション

10:40-12:10

座長 (榊原記念病院) 磯部 光章
座長 (自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学兼循環器内科学) 桑原 政成

脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業

(自治医科大学付属病院脳卒中センター) 藤本 茂

(厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課) 松浦 朋美

(信州大学循環器内科) 桑原宏一郎

ランチョンセミナー2

12:20-13:10

共催：セコム株式会社

座長 (杏林大学医学部付属病院循環器内科) 副島 京子

心臓突然死のリスク上昇を捉えるAIモデルと、それを活用した見守りサービスについて

(京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻予防医療学分野) 石見 拓

心不全療養指導士セッション (チーム医療委員会企画セッション)

13:20-14:50

座長 (帝京大学医学部附属病院) 横山 直之

座長 (聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科) 長谷川恵美子

多様な職種から心不全の療養指導を行う

(都立墨東病院薬剤師) 中島美知穂

(榊原記念病院公認心理師) 安形知弥子

(日本医科大学附属病院作業療法士) 高畑 幸弘

(榊原記念病院管理栄養士) 江幡 佳澄

(東京女子医科大学看護師) 水谷 美緒

デザートセミナー 2

15:00-15:50

共催：ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

座長 (博慈会記念総合病院第3内科循環器科) 三軒 豪仁

心血管アウトカムの視点から考えるGLP-1受容体作動薬

「循環器内科医の立場から考えるGLP-1受容体作動薬への期待～メタボリックドミノを食い止めるために～」

(東京女子医科大学附属足立医療センター循環器内科) 嵐 弘之

Student Award

16:00-16:50

座長 (日本大学医学部内科学系先端不整脈治療学分野) 中井 俊子

座長 (千葉大学循環器内科学) 小林 欣夫

審査委員長 (新潟大学大学院医歯保健学研究科循環器内科学) 猪又 孝元

審査委員 (日本医科大学千葉北総病院集中治療室) 白壁 章宏

審査委員 (横浜市立大学外科治療学) 齋藤 綾

審査委員 (東京女子医科大学循環器内科) 山口 淳一

II-11 社会的孤立が認知症合併心不全患者の退院後通院に及ぼす影響

(日本医科大学医学部医学科) 稲見 優希

梶 俊哉

(日本医科大学附属病院循環器内科) 久保田芳明、渡邊 将央、太良 修平、浅井 邦也

(日本医科大学附属病院看護部) 川添 紀子、大金美羽子

(日本医科大学医療管理学) 西野 拓也

(日本医科大学衛生学・公衆衛生学) 加藤 活人、大塚 俊昭

II-12 AI搭載心電図アプリが冠動脈インターベンションの治療戦略にもたらす影響

(聖マリアンナ医科大学医学部) 田中 隼紀

(聖マリアンナ医科大学循環器内科) 貝原 俊樹、佐々木憲一、明石 嘉浩

- II-13 がん治療関連心機能障害（CTRCD）発症予測における血管機能指標の意義
 （防衛医科大学医学部医学科） 長田 泰知
 （防衛医科大学校循環器内科） 長友 祐司、内藤 朱美、河合 茜、岩下 碧、
 小西 崇夫、池上 幸憲、足立 健
 （防衛医科大学校集中治療部） 安田理紗子、眞崎 暢之
- II-14 慢性血栓塞栓性肺高血圧症患者における治療前後のQOL変化とその関連因子に関する検討
 （杏林大学医学部） 河西 有紀
 （杏林大学附属病院循環器内科） 合田あゆみ、竹内 真介、竹内かおり、菊池 華子、
 伊波 巧、河野 隆志、副島 京子
- II-15 悪性リンパ腫の心臓への浸潤形態から生前の心電図異常の機序を考察し得た1剖検例
 （昭和医科大学医学部医学科） 大野 淳成
 （昭和医科大学医学部法医学講座） 松山 高明
 （昭和医科大学藤が丘病院循環器内科） 沼尻 祐貴、鈴木 洋
 （昭和医科大学藤が丘病院血液内科） 酒井 広隆
 （昭和医科大学藤が丘病院臨床病理診断科） 小川 高史

Resident Award

17:00 -18:00

座長（相模原病院循環器内科） 森田有紀子
 座長（東邦大学大学院医学研究科循環器内科学） 池田 隆徳
 審査委員長（東京大学医学部附属病院循環器内科） 武田 憲彦
 審査委員（昭和医科大学医学部内科学講座循環器内科学部門） 新家 俊郎
 審査委員（日本医科大学千葉北総病院循環器内科） 小林 宣明
 審査委員（慶應義塾大学医学部循環器内科） 家田 真樹

- II-16 SGLT2阻害薬，GLP-1受容体作動薬，併用療法の心血管腎予後改善効果の比較
 （日本赤十字社医療センター初期研修医） 浅沼 禎
 （Westchester Medical Center） 染谷 将太
 （Mount Sinai Morningside and West, Icahn School of Medicine at Mount Sinai） 渡邊 淳之
 （Division of Cardiology, Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School） 工野 俊樹
- II-17 三尖弁単純切除は成立するのか？—17年無再建例と再置換を要した感染性心内膜炎の2症例
 （横浜南共済病院循環器内科） 土居 亮滋
 鈴木 誠、藤井 洋之、清水 雅人、鈴木 秀俊、
 島田 博史、加藤 信孝、関川 雅裕、山口 正男、
 辛島 千尋、酒井 瑛子、清水 厚哉、池田 博、
 山口 奈桜、一色 椋太
 （小田原循環器病院循環器内科） 西崎 光弘
 （東京科学大学循環器内科） 笹野 哲郎
- II-18 第二世代BTK阻害薬ザヌブルチニブ投与中に胸痛発作が出現したMINOCAの一例
 （北里大学病院循環器内科） 長谷川みゆ
 亀田 良、箸方 健宏、桂 有智、橋本 拓弥、
 南 尚賢、目黒健太郎、下浜 孝郎、阿古 潤哉
- II-19 心房細動による頻拍発作によりショックを呈した肥大型心筋症の一例
 （日本医科大学武蔵小杉病院初期研修医） 中島 優衣
 （日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科） 岡 英一郎、伊藤 乃波、安念 大治、平山 浩章、
 瀬崎あやの、澤島 摩那、田中 匡成、渡辺 允、
 福泉 偉、黄 俊憲、細川 雄亮、丸山 光紀

- II-20 単冠動脈を合併した成人右室流出路狭窄の1例
(相模原協同病院初期臨床研修医)
(相模原協同病院循環器内科)
- 伊東 滯
古賀 将史、土居 祥子、関川洋太郎、田中 航、
小木曾 翔、吉澤 智治、杉本 篤彦
- II-21 食道癌へのイピリムマブ／ニボルマブ併用療法後にICI関連心筋炎を発症し集学的治療で救命し得た一例
(船橋市立医療センター臨床研修センター)
(船橋市立医療センター心臓血管センター循環器内科)
- 野村新太郎
青山 里恵、堀江 華奈、須藤 洋尚、林 智彦、
丘 慎清、内山 貴史、岩田 曜、石脇 光、
沖野 晋一、福澤 茂

第Ⅲ会場

一般演題 セッション3 不整脈1

9:00-9:35

座長 (三井記念病院循環器内科) 湯澤ひとみ

座長 (慶應義塾大学医学部循環器内科) 西山崇比古

コメンテーター (日本医科大学多摩永山病院循環器内科) 萩原かな子

Ⅲ-1 心房頻拍と完全右脚ブロックによりTrifecta弁SVDの評価が困難であった一例

(昭和医科大学横浜市北部病院循環器内科) 小柳 唯

(昭和医科大学病院循環器内科) 中村 友哉、片桐 順史、大石 庸介、新家 俊郎

Ⅲ-2 右房自由壁切開線癬痕の一方方向性ブロックが関与した開心術後のマクロリエンत्री性心房頻拍の一例

(かわぐち心臓呼吸器病院循環器内科) 川原 隆道

宮内 靖史、小林 典之、太田 裕士、油井 慶晃、

佐藤 直樹

Ⅲ-3 発作性完全房室ブロックが心室細動の原因疾患と考えられたaborted sudden death症例

(新潟万代病院循環器内科) 田村 真

Ⅲ-4 伝導遅延特性を有する左側壁ケント束によるlong RP頻拍の1例

(新潟県立中央病院循環器内科) 桑原 愛香

松尾 佑治、加藤 淳、武内 春香、大島 央、

仲尾 政晃、西川 尚

Ⅲ-5 心房細動の持続化に縦隔腫瘍による左房-肺静脈伸展の関与が示唆された1例

(自治医科大学附属病院卒後臨床研修センター) 藤井 愛

(自治医科大学附属病院循環器内科) 和地 純佳、渡部 智紀、牧元 久樹、渡邊 裕昭、

上岡 正志、甲谷 友幸、原田 顕治、今井 靖、

苅尾 七臣

一般演題 セッション4 不整脈2

9:40-10:15

座長 (埼玉石心会病院循環器内科) 入江 忠信

座長 (東京女子医科大学病院循環器内科) 矢崎恭一郎

コメンテーター (日本医科大学付属病院循環器内科) 藤本 雄飛

Ⅲ-6 パルスフィールドアブレーションを用いて左上大静脈遺残の隔離を行い慢性期に評価した得た1例

(広尾病院循環器科) 松山 恭平

北條林太郎、鈴木千紗都、和泉 碧葉、横関 文弥、

砂川 昌隆、神崎 拓、水沼 吉章、佐々木高史、

山岡広一郎、鯨岡 裕史、新井 智之、吉田 精孝、

笠野 健介、高橋 正雄、土山 高明、深水 誠二

Ⅲ-7 AFアブレーション後心嚢食道瘻治療後の左房天蓋部頻拍再発に対しPFAで安全に治療し得た1例

(総合病院土浦協同病院循環器内科) 村上 理子

下里 光、瀬戸口実玲、石沢 太基、仲田 恭崇、

原 聡史、佐藤 慶和、三輪 尚之、久佐 茂樹、

蜂谷 仁

Ⅲ-8 POSを呈したiASDの一例
(順天堂大学医学部附属浦安病院循環器内科) 土居 健太
南野 徹、戸叶 隆司、高須 清、宮崎 哲朗、
小田切史徳、牧 正彬、島井 亮輔、阿部 寛史、
石井 開、住吉 まり、鈴木 隆誠、都丸 雅人

Ⅲ-9 WPW症候群の心房細動合併例に対しアブレーションによる同時治療を行った一例。
(北里大学病院循環器内科) 小澤 樹央
小林 周平、石末 成哉、深谷 英平、阿古 潤哉

Ⅲ-10 パルスフィールドアブレーションによる肺静脈隔離後に遅発性冠動脈攣縮を来した1例
(国立国際医療センター循環器内科) 森木 果菜
榎本 善成、寺島 諒、和田 瑞貴、三宅 渉、
山本 正也、原 久男、廣井 透雄

一般演題 セッション5 心筋炎・心筋症1

10:20-10:55

座長 (日本医科大学付属病院心臓血管集中治療科) 澁谷 淳介
座長 (聖路加国際病院循環器内科) 鈴木 隆宏
コメンテーター (日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科) 福泉 偉

Ⅲ-11 全身性アミロイドーシスに非閉塞性腸管虚血を合併した1例検例
(川崎市立井田病院循環器内科) 齋藤 歩貴
永井 知雄、清水 規隆、原田 裕子、好本 達司
(川崎市立井田病院病理診断科) 杜 雯林
(慶応義塾大学病院循環器内科) 遠藤 仁
(慶応義塾大学病院病理診断科) 上野 彰久

Ⅲ-12 急速に重症心不全を呈した全身性ALアミロイドーシスの一例
(獨協医科大学埼玉医療センター循環器内科) 井貝 晃輔
華 臻聖、岩瀬 太希、越川 優里、板橋 裕史、
小林さゆき、田口 功

Ⅲ-13 劇症型心筋炎に対しImpellaCPからImpella5.5へアップグレードし良好な転機を得た1例
(海老名総合病院循環器内科) 円谷 斉子
三宅 真太、小林 珠己、奥田 彩楽、土屋 亮、
齋藤 崇史、飯田 剛幸、岩本讓太郎、澁江 竜馬、
高頭健太郎、長岡 優多

Ⅲ-14 LVAD植込み後の心原性ショックの1例
(東京女子医科大学循環器内科) 李 承銘
岸原 誠、亀谷 智子、大藪謙次郎、南 雄一郎、
曾根麻衣子、菊池 規子、服部 英敏、春木伸太郎、
南 義成、市原 有起、布田 伸一、新浪 博士、
山口 淳一

Ⅲ-15 完全房室ブロックに対するペースメーカー植込み9年後に診断に至った心臓サルコイドーシスの一例
(日本医科大学千葉北総病院循環器内科) 小谷 勇太
高圓 雅博、栗原 理、植竹 俊介、小林 宣明、
高野 雅充
(日本医科大学付属病院循環器内科) 浅井 邦也

一般演題 セッション6 心筋炎・心筋症2

11:00-11:35

座長 (日本大学病院循環器内科) 深町 大介
座長 (横浜市立大学附属病院循環器内科) 中島 理恵
コメンテーター (千葉大学医学部附属病院循環器内科) 加藤 賢

Ⅲ-16 全身性エリテマトーデスに起因する劇症型心筋炎に対し集学的治療が奏功した1例

(聖マリアンナ医科大学病院循環器内科学) 田尻 郁哉
佐藤 如雄、金光 陽子、村田理沙子、有馬 佑策、
宮原 大輔、鈴木 規雄、出雲 昌樹、明石 嘉浩

Ⅲ-17 完全房室ブロックと致死性不整脈で発症しトロポニン高値が遷延した劇症型心筋炎の一救命例

(聖隷横浜病院心臓血管センター内科) 山中遼太郎
河合 慧、笠間 武瑠、長谷川和喜、仙波 貴之、
富島 佳之、中島 啓介、五十嵐 建、芦田 和博
(聖隷横浜病院心臓血管センター外科) 清原 久貴、乗松 東吾

Ⅲ-18 急性心不全代償後に残存したⅡ型呼吸不全と近位筋異常から抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎の診断に至った一例

(多摩総合医療センター循環器内科) 廣中 成紀
磯貝 俊明、櫻井進一郎、飯島 千博、中村 文紀、
三輪 裕仁、神島 一帆、加藤 賢

Ⅲ-19 ジソピラミド投与開始から数年後に低血糖を来し、マバカムテンに変更した閉塞性肥大型心筋症の1例

(千葉大学医学部医学科) 大木 陽介
(千葉大学医学部附属病院循環器内科) 原田 悠斗、加藤 賢、高岡 浩之、大門 道子、
小林 欣夫

Ⅲ-20 冠攣縮性狭心症(VSA)を伴う不整脈原性右室心筋症(ARVC)により院外心停止をきたした一例

(川崎市立川崎病院総合内科/川崎市立川崎病院循環器内科) 葛西 那央
(川崎市立川崎病院循環器内科) 李 慧崇、明神 聡介、高 聖淵、深江 智明、
西澤 健也、末吉浩一郎
(川崎市立川崎病院心臓血管外科) 森 厚夫、益田 智章、尾本 正
(川崎市立川崎病院救急科) 松井 脩
(川崎市立川崎病院病理診断科) 堂本 英治、折笠 英紀
(川崎市立川崎病院脳神経内科) 安部 恭嗣、北園 久雄

一般演題 セッション7 心内膜炎

11:40-12:10

座長 (関東中央病院循環器内科) 田部井史子
座長 (聖マリアンナ医科大学病院循環器内科) 貝原 俊樹
コメンテーター (山梨大学医学部附属病院循環器内科) 吉崎 徹

Ⅲ-21 多発脳梗塞と深部静脈血栓症を合併したLöffler心内膜炎の1例

(東京臨海病院循環器内科) 青木 萌子
溝渕 公規、右田 昌平、河内 啓子、向後 隆章、
園田 和正、野本 和幹
(日本大学医学部内科学系循環器内科学分野) 奥村 恭男

Ⅲ-22 抗リン脂質抗体症候群を合併した心不全を伴う感染性心内膜炎に多科連携で二弁置換術を行い良好に経過した例

(日本医科大学付属病院心臓血管集中治療科)

伊藤 乃波

木村 徳宏、伊藤 紳晃、高橋 應仁、中田 淳、

宮地 秀樹、山本 剛

(日本医科大学循環器内科)

鈴木 啓士、浅井 邦也

(日本医科大学心臓血管外科)

丸山 雄二、石井 庸介

Ⅲ-23 感染性脳動脈瘤破裂を契機に診断され、治療順序の判断に苦慮した感染性心内膜炎の一例

(日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科・集中治療室)

瀬崎あやの

福泉 偉、安念 大治、平山 浩章、澤島 摩耶、

小山内悠介、田中 匡成、岡 英一郎、黄 俊憲、

細川 雄亮、丸山 光紀

Ⅲ-24 経カテーテル肺動脈弁留置術後の生体弁浮動が誘因と考えられたLactobacillus人工弁感染

(筑波大学附属病院循環器内科)

柄澤 裕二

川松 直人、田邊 好秀、飯岡 勇人、野崎 良寛、

町野 智子、山崎 浩、星 智也、五十嵐 都、

加藤 秀之、鈴木 広道、石津 智子

ランチョンセミナー 3

12:20-13:10

共催：Alnylam Japan株式会社

座長 (埼玉医科大学総合医療センター心臓内科) 重城健太郎

ATTR-CMの早期診断とsiRNAが切り拓く疾患修飾治療

基部肥大に潜むATTR-CM ～ HOCM/Sigmoidとの鑑別とバルサルバ洞への着目～

(杏林大学医学部付属病院循環器内科)

栗屋 徹

ATTR心アミロイドーシス治療のパラダイムシフト～アムヴトラの現在地とこれから～

(東京科学大学大学院医歯学総合研究科循環制御内科学)

梅本 朋幸

第27回ダイバーシティ・フォーラム

13:20-14:50

デザートセミナー 3

15:00-15:50

共催：ファイザー株式会社
座長（北里大学医学部循環器内科学） 石井 俊輔

ATTR-CM診療 最新知見

TAVI時代における心アミロイドーシス：心筋生検からの知見

（横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター内科） 松下 絢介

あらためて“タファミジス”を考える

（慶應義塾大学医学部循環器内科） 遠藤 仁

デザートセミナー 6

16:00-16:50

共催：グラクソ・スミスクライン株式会社
座長（群馬大学医学部内科学講座循環器内科学分野） 石井 秀樹

循環器疾患患者さんで注意すべき感染症：その疾病負荷

（北里大学医療衛生学部） 東條美奈子

第IV会場

一般演題 セッション8 虚血性心疾患1

9:00-9:45

座長 (JCHO東京新宿メディカルセンター循環器内科) 谷地 織
座長 (東京大学医学部附属病院循環器内科) 加門 辰也
コメンテーター (日本医科大学多摩永山病院循環器内科) 中野 博之

IV-1 冠動脈ステント留置後に左冠動脈主幹部内で機械式IVUSがTwistして抜去困難となった1例
(千葉ろうさい病院循環器内科) 牧之内 崇

山内 雅人、浅野 達彦、時政 聡、山崎 達朗、
渡部 憲、長谷川和輝

IV-2 亜急性ST上昇型心筋梗塞に対するPCI後にelectrical stormをきたした1例
(日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科) 澤島 摩那

細川 雄亮、伊藤 乃波、河野 文哉、瀬崎あやの、
大塚 悠介、渡辺 允、岡 英一郎、福泉 偉、
黄 俊憲、丸山 光紀
(日本医科大学循環器内科) 岩崎 雄樹

IV-3 急性心筋梗塞に対する緊急冠動脈造影の際に著明な冠状動脈瘤を呈した57歳男性の症例
(ひたち医療センター) 近藤 武志

中澤 幹、齋藤 純、増永 裕輔、茅野 博行

IV-4 短期間に急性冠症候群を繰り返した高リポプロテイン(a)血症の1例
(榊原記念病院循環器内科) 布木 誠之

萩谷 健一、河合 冬星、石橋 典幸、岡部 浩哉、
舟木 孝志、西郡 卓、木島 康文、高見澤 格、
七里 守、磯部 光章

IV-5 急性下壁心筋梗塞を繰り返し冠攣縮性狭心症を合併していた1例
(市立甲府病院循環器内科) 野口 勝生

瀧島 勳、土屋 健、阿部 萌子、齊藤 幸生、
沢登 貴雄

IV-6 急性心筋梗塞によるElectrical storm (ES) に対して集学的治療が奏功した1例
(前橋赤十字病院心臓血管内科) 梅屋 智歩

峯岸美智子、安藤 和秀、橋本 真殊、椎名 貴行、
岡田 英樹、小林 洋明、庭前 野菊、丹下 正一

一般演題 セッション9 虚血性心疾患2

9:50-10:35

座長 (博慈会記念総合病院第3内科循環器科) 三軒 豪仁
座長 (順天堂大学医学部附属順天堂医院循環器内科) 高橋 徳仁
コメンテーター (日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科) 黄 俊憲

IV-7 経皮的冠動脈形成術施行中に心肺停止となり造影剤使用によるKounis症候群が疑われた一例
(済生会横浜市東部病院循環器内科) 島津慶一郎

毛利 圭佑、小山 智久、藤井陽太郎、谷中 夏海、
村井 篤弥、深川 知哉、山口 航平、宮田 雅大、
堤 正和、毛利 晋輔、小林 範弘、伊藤 良明

IV-8 待機的PCI後に心室中隔穿孔を起こした一例
(前橋赤十字病院心臓血管内科)

椎名 貴行
庭前 野菊、小林 洋明、峯岸美智子、岡田 英樹、
富澤 美夏、佐々木孝志、西尾 理沙、安藤 和秀、
橋本 真殊

IV-9 巨大瘤を合併した冠動脈肺動脈瘻の一例
(草加市立病院循環器内科)

松本 龍元
伊志嶺百々子、粟根 隆介、田代 燦、
戸舎 稚詞、須藤 悠太、古浦 賢二、岡田 寛之、
稲垣 裕

IV-10 失神を契機に聴診所見から確定診断に至った心室中隔穿孔の1例
(群馬大学医学部医学科)
(群馬大学循環器内科)

柳田 侑哉
高間 典明、石橋 洋平、石尾洵一郎、谷内 亮太、
天内 士郎、長坂 崇司、石井 秀樹

IV-11 Impella CP補助下待機的修復術中に左室後壁破裂を来した心筋梗塞後心室中隔穿孔の一例
(前橋赤十字病院高度先進ハートセンター心臓血管内科)

西尾 理沙
佐々木孝志、峯岸美智子、小林 洋明、庭前 野菊
(前橋赤十字病院高度先進ハートセンター心臓血管外科)
武井 祐介、堀 貴行、栗田 俊之

IV-12 4度目の蜂刺傷後にKounis症候群Type2の一例
(公立昭和病院初期研修医)
(公立昭和病院循環器内科)

兒玉 尚亮
岡田 健助、渡邊さくら、金子 翔太、新井 諒一、
村上 貴彦、松永 紘、朝田 一生、大森 康歳、
石原有希子、鴨井 祥郎、田中 茂博

一般演題 セッション10 虚血性心疾患3
10:45-11:30

座長 (横浜市立大学医学部循環器内科学) 大塚 文之
座長 (東京科学大学循環器内科) 河村 岩成
コメンテーター (前橋赤十字病院心臓血管内科) 反町 秀美

IV-13 意識消失を契機に、中隔枝閉塞による房室ブロックと診断した1例
(獨協医科大学病院心臓・血管内科/循環器内科)

鈴木 利憲
和久隆太郎、黒崎 時生、前田甲雄太、近藤 侃、
鈴木立二郎、井上 莉里、橋本 涼太、廣瀬 優、
西野 節、佐久間理吏、豊田 茂

IV-14 繰り返す冠動脈造影が診断に有効であった小血管に生じた特発性冠動脈解離の一例
(新潟市民病院循環器内科)

佐藤 史弥
高橋 和義、尾崎 和幸、保坂 幸男、田中 孔明、
柏 麻美、林 由香、秋山 琢洋、内藤 大智、
原 祐輔、瀬尾 友太、荻部 哲也、加藤 晃帆

IV-15 右単冠動脈症の急性冠症候群に対して経皮的冠動脈形成術を施行した1例
(筑波記念病院循環器内科)

鳴原 龍矢
内田 靖人、山本 正浩、中根 啓貴、太田 千尋、
上原 裕規、井川 昌幸、榎本 強志

- IV-16 PCSK 9 阻害剤早期導入で血行再建術を施行せずにFFR-CT値の改善を認めた心筋梗塞の1例
 (東邦大学医学部) 鮫田 航
 (東邦大学医療センター大橋病院循環器内科) 飯島 雷輔、池田 長生、中村啓二郎、國正 妙子、
 原 英彦
- IV-17 数日間で心筋梗塞を発症した冠動脈瘤の一例
 (東邦大学医学部) 吉村 拓樹
 (東邦大学医療センター大橋病院循環器内科) 林 典行、池田 長生、飯島 雷輔、原 英彦
- IV-18 IABPのバルーンラプチャー後に血栓形成で抜去に難渋した一例
 (練馬光が丘病院) 濃野 光
 裴 賢哲、門坂麻耶子、鴨志田 将、齊藤 遥平、
 伴 聡一郎、齋藤 大樹、間瀬 卓顕、野村 陽平、
 佐藤 陽、山本 慶、荒尾憲司郎、安達 秀雄

一般演題 セッション11 全般的問題/地域医療/その他
 11:40-12:10

座長 (虎の門病院循環器センター内科) 山口 徹雄
 座長 (日本医科大学大学院医学研究科衛生学公衆衛生学) 加藤 活人
 コメンテーター (新潟医療センター循環器内科) 冨井亜佐子

- IV-19 重症心筋梗塞に対してIMPELLA導入した症例の終末期医療：倫理的観点での検討
 (日本大学医学部附属板橋病院循環器内科) 佐々木 潤
 堀 光一郎、長尾 哲朗、新井 陸、奥村 恭男
- IV-20 慢性期の病院外での心臓リハビリテーション様運動プログラムの有効性
 (株式会社Doctock循環器内科) 丸目 恭平
- IV-21 骨格筋指標としての安静時酸素摂取量は、心血管疾患における最高酸素摂取量を予測する
 (横浜市立大学循環器内科学) 境 駿佑
 小西 正紹、岩田 究、峯岸慎太郎、小村 直弘、
 大塚 文之
 (横浜市立大学循環器内科学/横浜市立大学市民総合医療センター心血管センター) 日比 潔
 (横浜市立大学市民総合医療センター心血管センター) 中橋 秀文、松下 絢介、岡田 興造、松澤 泰志、
 岩橋 徳明
- IV-22 当科入院症例における睡眠時無呼吸症候群の頻度と重症度の検討
 (群馬大学大学院医学系研究科医学部医学科) 大野 心幹
 (群馬大学大学院医学系研究科内科学講座循環器内科学) 高間 典明、石尾洵一郎、佐野 幸恵、石橋 洋平、
 長坂 崇司、石井 秀樹

ランチョンセミナー4 12:20-13:10 共催：ポストン・サイエンティフィックジャパン株式会社
 座長 (虎の門病院) 山口 徹雄
 座長 (日本医科大学付属病院) 岩崎 雄樹

-左心耳とじて、未来をひらく- 『WATCHMAN FLX Pro 左心耳閉鎖術』

インターベンシオナリストが考える、WATCHMANの適応
 (済生会横浜市東部病院) 山口 航平

心房細動アブレーション：術後の患者管理
 (新百合ヶ丘総合病院) 高橋 良英

会長企画セッションⅡ

13:20-14:50

座長（日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科）細川 雄亮

座長（東邦大学医療センター大森病院循環器内科）矢部 敬之

「その生成AI、どう使う？— 若手医師のための実践的AI活用」

本セッションは、急速に進展する生成 AI を循環器内科領域において若手医師が安全かつ実践的に活用するための指針を提示することを目的とする。日常診療における診療支援、文書作成、情報整理の効率化に加え、研究デザイン構築や論文作成、教育への応用など、臨床とアカデミア双方での具体的な活用法を提示する。また、その有用性のみならず、誤情報リスク、バイアス、倫理的配慮といった限界も整理することで、循環器診療の質向上と次世代医師の能力強化に資する実践的視座を提供する。

『Chat』は古い？医師の最新AI活用法 ～ AI活用のリスクも含めて～

（藤沢湘南台病院循環器内科） 福島 裕介

アカデミアにおける生成AIの活用

（昭和医科大学横浜市北部病院消化器センター） 三澤 将史

デザートセミナー 4

15:00-15:50

共催：日本メドトロニック株式会社

座長（日本医科大学付属病院心血管集中治療科）山本 剛

症例から考える一心臓突然死リスクと予防の実際

ICD一次予防の現状と課題 —ICDの一次予防を再考する—

（順天堂大学医学部附属順天堂医院循環器内科） 林 英守

心臓突然死予防に挑む当院の取り組み

（帝京大学医学部附属病院循環器内科） 筒井 健太

デザートセミナー 7

16:00-16:50

共催：プリストル・マイヤーズスクイブ株式会社

座長（聖マリアンナ医科大学循環器内科）明石 嘉浩

肥大型心筋症

カムザイオス時代のHOCM診療体制の再構築 ～三井式HOCM診療フローチャート～

（三井記念病院循環器内科） 田中 旬

心筋ミオシン阻害薬は本当に効くのか？ ～実臨床からみた肥大型心筋症治療の変化～

（群馬県立心臓血管センター循環器内科） 小板橋紀通

第V会場

一般演題 セッション12 不整脈3

9:00-9:30

座長 (聖マリアンナ医科大学循環器内科) 中島育太郎

座長 (東京慈恵会医科大学附属病院循環器内科) 徳竹 賢一

コメンテーター (信州大学病院循環器内科) 岡田 綾子

V-1 CAR-T細胞療法後の感染性心内膜炎による血栓性微小血管症に続発した一過性房室ブロック

(帝京大学医学部附属病院内科学講座循環器内科)

伴 明日香

鬼頭 健人、瀬尾 和優、吉住 多聞、齋藤 仁文、

小林 拳、中村 環、大宮 譲、近藤 彬令、

笹島 佑、荒川 雅崇、井関 洋成、初野 弥奈、

三浦 瑞樹、筒井 健太、片岡 明久、渡邊 雄介、

上妻 謙

(帝京大学医学部附属病院医学部病理学講座)

羽賀 敏博、笹島ゆう子

(昭和医科大学医学部法医学講座)

松山 高明

V-2 体表心電図より左室流出路起源が疑われたが右室流出路から焼灼できた心室期外収縮の一例

(済生会横浜市南部病院初期臨床研修センター)

中條 拓政

(済生会横浜市南部病院 循環器内科)

成川 雅俊、高瀬 旺、悦田浩太郎、栗原 直人、

所 卓見、石川 博之、久慈正太郎、仲地 達哉、

菅野 晃靖

V-3 右房内腫瘍切除に合併した洞結節切除後の洞不全症候群に対して頸静脈ペースメーカを留置した一例

(自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科)

白木 瑛一

山本 真吾、大橋 潤平、渡辺 雄也、林 達哉、

坂倉 建一、藤田 英雄

V-4 食道温低下を認めなかったクライオアブレーション後に急性胃拡張を発症した一例

(日本医科大学医学部医学科)

吉田 えま

(日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科)

岡 英一郎、伊藤 乃波、安念 大治、瀬崎あやの、

澤畠 摩那、田中 匡成、渡辺 允、福泉 偉、

黄 俊憲、細川 雄亮、丸山 光紀

一般演題 セッション13 デバイス

9:50-10:20

座長 (榊原記念病院循環器内科) 関口 幸夫

座長 (昭和医科大学病院循環器内科) 中村 友哉

コメンテーター (埼玉医科大学国際医療センター心臓内科) 松本 和久

V-5 Double Snare Techniqueにより回収しえたリードレスペースメーカーの一例

(昭和医科大学病院循環器内科)

千野 沙織

中村 友哉、甲斐 陽介、上野 倫平、石川 貴将、

宮崎はるか、新井 脩平、吉川 浩介、浅野 拓、

新家 俊郎

V-6 リードレスペースメーカーの急激な電池消耗に対して、2個目の留置を行った超高齢男性の一例

(深谷赤十字病院循環器内科)

久保田祥平

酒井 将人、上羽 卓、五十嵐宏伸、加藤 正樹、

藤井 孝成、松本 直大、田口 哲也、後藤 貢士、

関口 誠、宮嶋 玲人、長谷川修一

V-7 洞不全症候群に対してAVEIR AR植込み3日後に一過性の完全房室ブロックを呈し、AVEIR VRを追加留置した1例

(平塚共済病院循環器内科) 西川陽一郎
松本 拓己、中田 光宥、津野 航、吉川 宏、
河本 梓帆、仁井田崇志、秋吉 基光、荒木 恵子、
岩井 慎介、小林 一士、大西 祐子

V-8 複雑な解剖の制約のため心房用リードスペースメーカーを右心房中隔に留置した一例

(武蔵野赤十字病院循環器内科) 吉光寺直哉
金子 雅一、渡邊 剛史、高熊 朗、小井土文香、
松田 和樹、大平 麻貴、照井 麻央、加地 大悟、
堀江 知樹、長瀬 将、三澤 透、李 哲民、
永田 恭敏、野里 寿史、足利 貴志

ベストティーチャー生LIVE -Part 3- (地方会あり方検討委員会企画セッション)

10:40-12:10

座長 (帝京大学医学部内科学講座・循環器内科) 上妻 謙

座長 (群馬大学大学院医学系研究科内科学講座循環器内科学分野) 石井 秀樹

「画像診断を語る 一虚血性心疾患の非侵襲的画像診断と心不全のMRIを中心とした画像診断一」

日本循環器学会関東甲信越地方会では、前回から日本循環器学会「5分でわかる循環器 Best Teacher Series」でご活躍されている先生方を、実際に地方会の会場へお招きし、“生で学ぶ”特別教育企画を開催しています。動画で人気を集めるコンパクトかつ魅力的なレクチャーを、ライブならではの臨場感と双方向性を交えてお届けします。日常診療に直結する知識やコツを、短時間で効率よく学べる貴重な機会です。若手医師・研修医はもちろん、指導医の先生方にとっても、新たな学びと気づきを得られるセッションとなると確信しております。ぜひ会場で、“Best Teacher”の熱意あふれる講演をご体感ください。

初めて心臓MRIを学ぶ人へ。どう使う？何がわかる？

(北里大学医学部循環器内科学) 鍋田 健

循環器内科の必要性を語る

(群馬大学大学院医学系研究科内科学講座循環器内科学分野) 石井 秀樹

ランチョンセミナー 5

12:20-13:10

共催：日本イーライリリー株式会社/田辺ファーマ株式会社

座長 (日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科) 丸山 光紀

肥満症

循環器医から見た薬剂的肥満症治療の意義

(森山記念病院循環器センター) 清末 有宏

学術委員会企画セッション

13:20-14:50

座長（東京都立小児総合医療センター）山岸 敬幸

座長（聖マリアンナ医科大学循環器内科学）明石 嘉浩

ACHDガイドライン；実臨床への橋渡し

ACHD（成人先天性心疾患）診療は近年大きく進歩し、2025年に新たなガイドラインが発刊された。本セッションでは「ガイドラインをいかに実臨床へ橋渡しするか」を主題としている。ガイドラインの理解にとどまらず、患者背景の多様性を踏まえた意思決定や、施設間差・地域差といった現実的課題を含め、日常診療でどのように活用するかを明らかにすることを目的とした。4名の先生方により、ガイドラインの全体像、画像診断、就労支援などの社会的課題、妊娠・出産といった重要領域を取り上げ、多角的視点から議論を深め、実践に資する知見の共有と今後の診療の質向上につなげることを目指す。

2025年改訂版 成人先天性心疾患診療ガイドラインのポイント解説

（東京都立小児総合医療センター） 山岸 敬幸

ACHD診療におけるMRIの有用性

（東京大学医学部附属病院循環器内科） 相馬 桂

ACHD患者の社会的問題にどう取り組むか？～医療者の一言から始まる就労支援の第一歩～

（北里大学医学部循環器内科学） 小板橋俊美

ACHDの妊娠出産

（聖路加国際病院心血管センター循環器内科） 椎名 由美

デザートセミナー5

15:00-15:50

共催：バイエル薬品株式会社

座長（新潟大学医歯学総合病院検査部）高山 亜美

慢性心不全とMRA

ケレンディアに期待すること

（東海大学医学部内科学系循環器内科学） 伊地知 健

Case Report Award

16:00-16:50

座長（杏林大学医学部循環器内科） 上田 明子

座長（自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科） 藤田 英雄

審査委員長（日本医科大学付属病院心臓血管集中治療科） 山本 剛

審査委員（榊原記念病院循環器内科） 細谷 弓子

審査委員（日本大学医学部内科学系循環器内科学分野） 奥村 恭男

審査委員（東京科学大学循環器内科） 笹野 哲郎

V-9 ACVRL1新規バリエントによる遺伝性出血性毛細血管拡張症を合併した妊婦に対する周産期の集学的管理 と治療

（東京大学医学部附属病院循環器内科） 川口 琴子

八木 宏樹、石田 純一、武田 憲彦

（東京大学医学部附属病院ゲノム診療部） 秋山 奈々

（東京大学医学部附属病院女性診療科・産科） 利光 正岳

（東京大学医学部附属病院小児科） 井上 毅信、田中 裕之、加藤 元博

V-10 急激な心膜液の貯留から鑑別に苦慮した、primary effusion lymphoma-like lymphomaの一例
(日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科) 安念 大治
田中 匡成、瀬崎あやの、澤島 摩那、渡辺 允、
岡 英一郎、福泉 偉、黄 俊憲、細川 雄亮、
丸山 光紀

V-11 バッハマン東パーシングが有効であった心筋生検で確定診断した洞不全症候群合併ALアミロイドーシスの1例
(山梨大学医学部循環器内科) 宮原 徳也
須藤 洸司、黒木 健志、後藤 剛顕、斎藤 惇平、
朝比奈千沙、植松 学、中村 和人、中村 貴光、
佐藤 明

V-12 直接作用型経口抗凝固薬内服下に発症し、心室細動・急性心筋梗塞を来した非細菌性血栓性心内膜炎の一例
(日本大学病院循環器内科) 池上 裕輝
瀬戸口俊貴、岩田良太郎、松永 悠路、平田 萌、
大塚 直人、藤戸 秀聡、門傳 昌樹、八木 司、
鷲尾 武彦、松本 真明、深町 大介、横山 勝章、
松本 直也
(日本大学医学部内科学系循環器内科分野) 奥村 恭男

V-13 大動脈解離に伴うLMT malperfusionにPCI/上行置換術後、人工血管分枝よりImpella5.5を挿入し救命し得た一例
(埼玉石心会病院循環器内科) 宇野 将太
西山 茂樹、西野 開、森迫 夏実、萩原 卓思、
若林 典弘、金山 純二、小路 裕、入江 忠信

Clinical Research Award

17:00-17:50

座長 (AOI国際病院不整脈先端治療センター) 川端美穂子
座長 (山梨大学医学部附属病院循環器内科) 佐藤 明
審査委員長 (新東京病院心臓内科) 清水 渉
審査委員 (横浜市立大学医学部循環器内科学) 日比 潔
審査委員 (群馬大学大学院医学系研究科内科学講座循環器内科学分野) 石井 秀樹
審査委員 (東邦大学医学部、東邦大学医療センター大森病院循環器内科) 中西 理子

V-14 生成AIを併用した医師間の遠隔チャットコンサルテーションの有用性
(東京大学医学部) 橋本 啓吾
(東京大学医学部附属病院循環器内科) 澤野晋之介、岸川 理紗、篠原 宏樹、石田 純一、
小寺 聡、武田 憲彦

V-15 未治療リポ蛋白(a)/LDLコレステロール比と解剖学的複雑性及び予後推定との関連
(埼玉医科大学総合医療センター心臓内科) 岸 宥希
家村 優、上嶋 紗瑛、吉川 公基、内藤珠美乃、
堀澤 優介、三好晃太郎、長堀 寛司、小形 円香、
奥田 希子、河原 勇貴、谷 昂大、村上 司、
安藤 敏行、阿部 拓朗、石原 嗣郎、小宮山英徳、
重城健太郎

- V-16 心房不整脈に対するアミオダロン誘発性甲状腺機能異常の危険因子と臨床的特徴
 (日本医科大学付属病院循環器内科) 小林 誠
 蜂須賀誠人、平山 浩章、土井田祐子、岡島 周平、
 伊藤 紳晃、藤本 雄飛、村田 広茂、相澤 義泰、
 淀川 顕司、浅井 邦也、岩崎 雄樹
- V-17 HIS束をCTで描出する 画像上の特徴と臨床的意義を心電図、ホルター心電図、経胸壁心エコーと比較する
 (国際医療福祉大学医学部市川病院循環器内科) 木内 涼風
 野島 永司、市川 睦紀、篠塚 穂香、小林 晃、
 船橋 伸禎
 (セントマーガレット病院循環器内科) 井川 修
 (東京慈恵医科大学葛飾医療センター循環器内科) 山下 省吾
 (群馬県立心血管センター循環器内科) 中村 紘規
- V-18 左心系弁腫瘍に対する外科治療の中遠隔期成績
 (日本医科大学付属病院心臓血管外科) 前川 良
 鈴木 憲治、網谷 亮輔、上田 仁美、廣本 敦之、
 白川 真、丸山 雄二、佐々木 孝、宮城 泰雄、
 石井 庸介
 (日本医科大学武蔵小杉病院心臓血管外科) 村田 智洋、前田 基博、渡邊 嘉之、坂本俊一郎

第Ⅵ会場

一般演題 セッション14 弁膜症1

9:00-9:35

座長 (帝京大学医学部附属病院循環器内科) 渡邊 雄介
座長 (東邦大学医学部内科講座循環器内科学分野) 小原 浩
コメンテーター (日本医科大学千葉北総病院集中治療室) 鳴原 祥太

VI-1 併存疾患を有する超高齢重症ASに対する治療戦略：合併症を回避し得たTAVIの1例

(獨協医科大学病院心臓・血管内科/循環器内科)

宗 建佑
廣瀬 優、鈴木 利憲、鈴木立二郎、西川 理壹、
綿引 愛美、橋本 涼太、和久隆太郎、西野 節、
佐久間理吏、豊田 茂
(獨協医科大学病院心臓・血管外科) 横山 晶平、加藤 昂、川村 匡

VI-2 心雑音精査で判明した大動脈弁下狭窄の一症例

(杏林大学医学部付属病院循環器内科)

柳澤 良晃
南島 俊徳、長江 篤季、西山 敬文、渡邊 貴之、
金澤 悠、河野 隆志、副島 京子、村田 光繁

VI-3 僧帽弁置換術後に経胸壁心エコーにて人工弁逸脱が発覚し再開胸僧帽弁置換術を施行した一例

(横浜市立みなと赤十字病院循環器内科)

熊谷 勇太
廣瀬 健、岩佐 一輝、加藤 祐樹、川地 祐輔、
安井 由美、喜舎場順一、小田 惇仁、大方信一郎、
村田 和也、浅野 充寿、志村 史左、有馬 秀紀、
倉林 学、山内 康熙

VI-4 脳保護デバイス併用下TAVIにより塞栓物を回収し得た超高齢重度大動脈弁狭窄症の1例

(順天堂大学臨床研修センター)

(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科)

畑 里奈
高橋 徳仁、土井信一郎、曹 叡智、大塚 隆弘、
加藤 隆生、小西 宏和、岡井 巖、岩田 洋、
岡崎 真也、南野 徹
(順天堂大学大学院医学研究科心臓血管外科) 田端 実

VI-5 典型所見に乏しい収縮性心膜炎をSystolic Area Indexと心臓MRI taggingで診断し得た1例

(静岡市立清水病院循環器内科)

(東京科学大学病院循環器内科)

(東京科学大学病院心臓血管外科)

臼井 綾香
荒木 誠、米津 太志、菅野 義典、松田 祐治、
星野 昌弘、杉山 知代、梅本 朋幸、笹野 哲郎
櫻井 啓暢、長岡 英気、藤田 知之

一般演題 セッション15 弁膜症2/先天性

9:50-10:25

座長 (三井記念病院循環器内科) 田中 旬
座長 (北里大学医学部循環器内科) 郡山 恵子
コメンテーター (千葉大学医学部附属病院循環器内科) 八島 聡美

VI-6 バルーン拡張型カテーテル人工弁留置後の溶血性貧血に対してバルーン大動脈弁形成術が有効であった1例

(東京都済生会中央病院)

(東京都済生会中央病院循環器内科)

松尾 賢亮
谷口 枝穂、長谷川 祐、伊崎慶史郎、亀山 翔平、
渡邊 桂子、藤井 佑樹、宮本 和享、遠藤 彩佳、
平田 直己、鈴木 健之、高橋寿由樹

VI-7 Trifecta弁の弁尖断裂で急性大動脈弁逆流症を来し死亡した一例
(武蔵野赤十字病院循環器内科) 徳井 爽馬
高熊 朗、馬場理沙子、黄 惠、小井土文香、
吉光寺直哉、松田 和樹、大平 麻貴、小田中勇樹、
加地 大悟、照井 麻央、堀江 知樹、長瀬 将、
三澤 透、宮崎 亮一、金子 雅一、李 哲民、
永田 恭敏、野里 寿史、足利 貴志

VI-8 3回目の開心術後に発症した僧帽弁位人工弁周囲逆流に対し心尖部アプローチにて経皮的閉鎖術を施行した一例
(東邦大学医療センター大橋病院循環器内科) 小林 遙か
塚越 友月、橋本 剛、池田 長生、新倉 寛輝、
中村啓二郎、飯島 雷輔、原 英彦
(東邦大学医療センター大橋病院心臓血管外科) 志村信一郎

VI-9 運動中に心肺停止となった冠動脈起始異常の1例
(JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院臨床研修科) 熊田あやな
(JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院循環器内科) 平森 誠一、依田 望、田畑 裕章、丸山 拓哉、
小林 隆洋、小塚 綾子、矢彦沢久美子
(信州大学附属病院循環器内科) 小林 秀樹、岡田 綾子、桑原宏一郎
(信州大学附属病院心臓血管外科) 瀬戸達一郎

VI-10 先天性心疾患術後と肺切除を背景に肺高血圧症の病態把握に苦慮した1例
(慶應義塾大学病院循環器内科) 玉置 博之
平出 貴裕、小平 真幸、岩永 光史、岸野 喜一、
白石 泰之、安西 淳、香坂 俊、家田 真樹

会長企画セッションⅢ

10:40-12:10

座長 (相模原病院循環器内科)

山本明日香

臨床に役立つ心臓解剖

近年、循環器診療は大きな進歩を遂げ使用機材、テクニックも大きく変化しています。これに伴い時代、時代で興味のポイントは変わり、必要とされる知識、情報の量も増加しています。とは言え、いつの時代にも変わることなく、どの循環器分野にも必要とされているのが心臓の構造情報と考えられます。

ともすれば、心臓解剖は「当たり前のこと、考える必要もない終わった学問」として片付けられています。3次元構造に時間的要素を加え、機能を考慮しながら構造を眺めていくと、そこには思いがけない発見と新たな展開が浮かび上がってきます。

本セッションでは「機能」を考慮しながら解剖を見直し、「構造のロジック」を駆使して明日からの臨床に活用できるような臨床心臓構造学の情報をお伝えできればと考えております。

循環器診療における心臓構造の重要性とその役割 ～刺激伝導系構造を含めて～

(セントマーガレット病院循環器内科) 井川 修

ランチオンセミナー6

12:20-13:10

共催：ニプロ株式会社/アボットメディカルジャパン合同会社

座長 (かわぐち心臓呼吸器病院集中治療室) 大山 慶介

「心原性ショック治療のその先に～LVAD施設とどう連携する?～」

LVAD施設との連携を意識した心原性ショック治療

(高崎総合医療センター心臓血管内科 (循環器)) 佐藤新之介

DT適応によって変わる重症心不全治療

(東京女子医科大学循環器内科) 服部 英敏

基礎×臨床

13:20-14:50

座長 (心臓血管研究所循環器内科) 加藤 祐子

座長 (東京大学医学部附属病院循環器内科) 武田 憲彦

高齢者心不全を“筋”と“免疫”から再定義する

本セッションは、本年度より日本循環器学会・循環器研究コンソーシアム WG の提案により、地方会員の皆様に基礎研究の最前線をより身近に感じていただくべく企画されました。

超高齢社会の喫緊の課題である「高齢者心不全」をテーマに、臨床の側面から末永祐哉先生に最新の知見を、加藤祐子先生には「臓器クロストークと骨格筋の重要性」について、現場の視点を交えてお話しいただきます。さらに基礎研究の第一人者である大石由美子先生を迎え、老化や心不全病態における「間質細胞とマクロファージによる修復メカニズム」を深掘りしていただきます。

最新の基礎研究がいかに臨床課題の解決に結びつくか。双方向の建設的な議論を通じて、明日からの診療を支える「科学的基盤」を共有することが本企画の目的です。領域の垣根を超え、知的好奇心を刺激する熱いディスカッションにご期待ください。

高齢心不全患者におけるフレイル・サルコペニアオーバービュー

(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学) 末永 祐哉

「骨格筋は心臓を救う！？—臓器クロストークと超高齢社会への臨床的含意—」

(心臓血管研究所循環器内科) 加藤 祐子

間質細胞とマクロファージが駆動する再生・修復：心不全と骨格筋老化の統合理解

(東京科学大学医歯学総合研究科病態代謝解析学) 大石由美子

一般演題 セッション16 肺高血圧・肺塞栓症

15:00-15:45

座長 (順天堂大学医学部循環器内科) 小西 博応

座長 (山梨大学医学部附属病院総合診療部・循環器内科) 中村 和人

コメンテーター (筑波大学附属病院循環器内科) 佐藤 希美

VI-7 中枢型CTEPH急性増悪に対しRescue BPAを施行しPEAに繋げることができた一例

(東京医科大学病院循環器内科) 宮本 美聡

伊藤 亮介、山下 淳、里見 和浩

(東京医科大学病院心臓血管外科) 鈴木 隼、島原 佑介

VI-8 巨大肝嚢胞に伴う線溶亢進型慢性DICの病型変化から広範囲肺塞栓症を来し治療に難渋した一例

(日本医科大学心臓血管集中治療科) 谷口 清和

澁谷 淳介、渡邊 将央、木村 徳宏、脇田 真希、

中田 淳、宮地 秀樹、山本 剛

(日本医科大学血液内科) 岸田 侑也

(日本医科大学循環器内科) 寺門 誠雄、浅井 邦也

VI-9 再発する肺塞栓症から発見された慢性血栓閉塞性肺高血圧症の一例

(日本医科大学附属病院循環器内科) 小西 宏和

松下 誠人、谷口 清和、平山 浩章、蜂須賀誠人、

野間さつき、浅井 邦也

(日本医科大学附属病院心臓血管集中治療科) 山本 剛

VI-10 繰り返すカテーテル感染に対してトレプロスチニル静注から吸入療法に移行した特発性肺動脈性肺高血圧症の例

(慶應義塾大学病院循環器内科) 關 佑里菜
山中 隼、平出 貴裕、白石 泰之、安西 淳、
香坂 俊、家田 真樹

VI-11 詳細な生活歴聴取が診断の契機となったPaget-Schroetter症候群の一例

(済生会新潟病院循環器内科) 藤澤 直毅
黒川 孝国、松山 優子、鈴木 友康、畑田 勝治

VI-12 薬物治療抵抗性の広範型急性肺血栓塞栓症に対し肺動脈血栓除去術が奏功した一例

(上尾中央総合病院循環器内科) 添田 裕基
鍵山弘太郎、李 勅熙、渡邊健太郎、松本 琴美、
谷本 周三、緒方 信彦
(上尾中央総合病院心臓血管外科) 柿内 健志、岩崎 里衣、堀 大治郎

一般演題 セッション17 外科的治療

16:00-16:30

座長 (日本医科大学武蔵小杉病院心臓血管外科) 丸山 雄二
座長 (千葉大学医学部附属病院心臓血管外科) 渡邊 倫子
コメンテーター (榊原記念病院心臓血管外科) 河合 幸史

VI-13 突然発症の心原性ショックで来院した急性大動脈弁人工弁逆流—2症例から考える診断・治療の問題点—

(信州大学医学部付属病院循環器内科) 中林 知紗
能見 英智、春原 大輔、大熊ゆかり、植木 康志、
加藤 太門、三枝 達也、海老澤聡一郎、
岡田 綾子、桑原宏一郎

VI-14 再発心臓肉腫の左房嵌頓にて循環不全を呈し、広範囲切除及び左房・僧帽弁複合再建で救命し得た一例

(榊原記念病院心臓血管外科) 山本 大悟
角 康平、尹 亮元、大野 真、中原 嘉則、
岩倉 具宏
(小倉記念病院心臓血管外科) 丸井 晃

VI-15 好酸球性多発血管炎性肉芽腫による冠動脈瘤と左冠洞嚢状瘤に対し血行再建と自己弁温存手術を施行した一例

(東京慈恵会医科大学心臓外科) 松田 健吾
石割 圭一、高木 智充、桐谷ゆり子、前田 恵、
益澤 明広、松村 洋高、儀武 路雄、長堀 隆一、
國原 孝

VI-16 部分型房室中隔欠損症根治術後の左側房室弁閉鎖不全に対して再々手術を施行した1例

(順天堂大学医学部附属練馬病院心臓血管外科) 嶋田 晶江
山本 平、土肥 静之、李 智榮、宮下 桃

会長企画セッションⅣ

16:40-18:10

座長（日本医科大学武蔵小杉病院心臓血管外科）坂本俊一郎

座長（船橋市立医療センター心臓血管センター循環器内科）青山 里恵

大動脈疾患フロンティア — 診断・内科治療・外科治療の最前線

本セッションは、高齢化に伴い複雑化・増加の一途を辿る大動脈疾患に対し、診断・内科・外科の垣根を超えた「集学的な知の結集」を目的としています。画像診断の第一線で血流・血栓性状評価のフロントラインを切り拓く放射線科の関根鉄郎先生、内科的バックグラウンドを持ちつつ圧倒的な症例経験から最適な大動脈治療を提示する坏宏一先生、そして「大動脈を科学する」という高次な視点から病態の本質に迫る血管外科の保科克行先生にご登壇いただきます。特に治療戦略の要となる放射線科的アプローチから、高度な判断と手技が求められる大動脈弓部治療の最前線まで、各科のエキスパートが最前線の知見を提示します。本セッションは、次世代のスタンダードを構築する貴重な場となります。すべての心臓血管外科医、放射線科医、そして循環器内科医の皆様にお送りする、大動脈疾患の臨床の深淵に触れる90分です。

大動脈疾患の新しい見方 — 血流、壁、可視化からひもとく最前線—

（日本医科大学付属病院放射線科） 関根 鉄朗

内科医に必要な急性大動脈解離の知識—診断と治療

（川崎幸病院川崎大動脈センター大動脈外科） 坏 宏一

大動脈を科学する

（東京大学血管外科） 保科 克行

特別企画：循環器サマースクール

循環器疾患は我が国の主要な死亡原因の一つであり、その克服には高度な専門性と多職種連携を担う人材育成が不可欠です。本サマースクールは、日本循環器学会関東甲信越地方会として初めての試みとして開催され、医学生および初期研修医を対象に、心臓カテーテル、心エコー、AED、人工心臓などを実際に体験できるハンズオン形式を中心とした体験型プログラムを提供します。講義にとどまらず、実臨床に近い環境での体験と、第一線で活躍する医師との直接的な交流を通じて、循環器医療の魅力と社会的意義を実感できる機会とします。さらに、本企画を契機に地域を越えた人的ネットワークの形成を促進し、将来の循環器医療を担う人材の育成と医療水準の向上に寄与することを目指します。

企画	：中山 敦子 先生
総合司会	：播磨 綾子 先生
エコー	：石津 智子 先生
カテーテル	：上妻 謙 先生
AED	：菊地 研 先生
人工心臓	：斎藤 綾 先生、松本 順彦 先生
ファシリテーター	：高山 亜美 先生、池上龍太郎 先生、堀越 健生 先生、能見 英智 先生、阿部 遼 先生、蛭間 貴司 先生、高橋 伸弥 先生
協賛	：テルモ株式会社 GEヘルスケア・ジャパン株式会社 レールダルメディカルジャパン株式会社 ニプロ株式会社 榊原記念病院

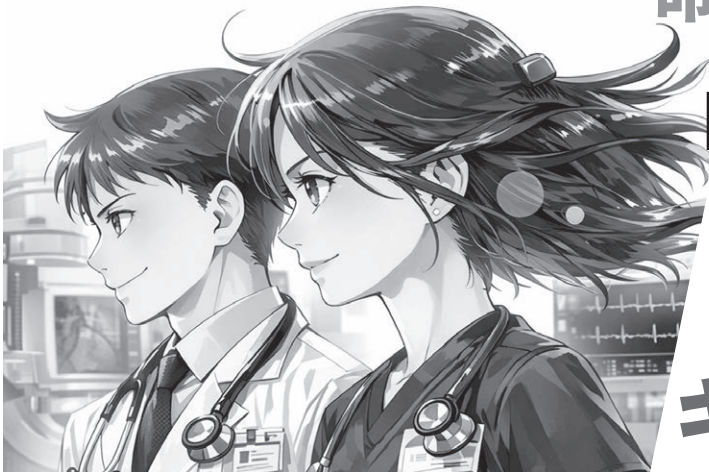


医学生・研修医対象 循環器サマースクール
第280回日本循環器学会関東甲信越地方会

命を救う仕事

君も循環器医師に
ならないか

働き方も
キャリアも



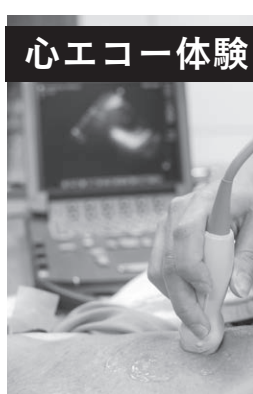
心臓カテーテル体験



AED体験



心エコー体験



人工心臓・補助循環シュミレーター



2026年6月13日 (土) 9時半 - 12時半(9時受付開始)

会場：東京駅すぐ ステーションコンファレンス東京6F 605BC

<循環器医師体験>

1. 心臓カテーテル検査
2. 心臓超音波検査
3. 自動体外式除細動器(AED)
4. 人工心臓デモ機

対象：
医学生・研修医
先着40名 無料
締切：5月31日

お申込みは
こちら↓



<進路相談-人生プラン、留学etc>

お問合せ：日本循環器学会関東甲信越
地方会 運営事務局
jcs-unei@supportoffice.jp

お知らせ

エコハンズオンセミナーのご案内 — Dr.泉のエコハンズオン —

- 協 賛 GEヘルスケア・ジャパン株式会社
- 会 場 6F 605BC
- 開催時間 13:30~16:30 (受付開始 13:10)
- 講 師 泉 佑樹 先生 (榊原記念病院 循環器内科)
- お申込み 事前申し込み・抽選制

リフレッシュモニタールームのご案内

- 会 場 6F 604 OPEN 9:00~18:10

第Ⅰ会場のスクリーン映像をご覧いただけるリフレッシュモニタールームをご用意しております。

Yogibo (ヨギボー) に座りながら、第Ⅰ会場の講演映像をゆったりとご覧いただけるスペースです。

また、お菓子やお飲み物もご用意しております。少しひと息つきたいときや、リラックスした雰囲気ですごしたいときにぜひお気軽にお立ち寄りください。



すわん君がやってきます！

日本循環器学会の禁煙啓発キャラクター「すわん君」が地方会にやってきます。ぜひ会場内で見つけてみてください！

すわん君とは？

すわん国出身。イジリ魔。しっぽ無い。
チキン野郎。禁煙喫煙者の身体の間(ヤニ)を取り除くべく「一般社団法人日本循環器学会」でお手伝い中!!



一般社団法人日本循環器学会 支部規程

(総則)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会（以下「日本循環器学会」という）各地区の支部（以下「各支部」という）の遵守すべき事項を定める。

(事務局)

第2条 各支部の事務局は、日本循環器学会定款施行細則に定める地区に置く。

(目的および事業)

第3条 各支部は日本循環器学会の目的達成のため次の事業を行う。

- 1) 地方会の開催
- 2) 日本循環器学会国際トレーニングセンター（JCS-ITC）としての講習会等の開催
- 3) 日本循環器学会本部からの委託事項の処理
- 4) その他目的の達成に必要な事業

(会員)

第4条 各支部の会員は、当該地区に所属する日本循環器学会の正会員および準会員とする。

2. 支部名誉会員/支部特別会員/支部顧問等の設置は各支部役員会で定めることとする。

(社員)

第5条 社員とは、日本循環器学会定款及び定款施行細則に基づき選出された各支部に所属する社員をいう。

(支部長)

第6条 各支部に支部長1名を置く。

2. 支部長は定款に基づき選出された支部所属理事の協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長は支部を統括する。
4. 支部長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(支部役員)

第7条 各支部に支部役員を若干名置く。

2. 支部役員は支部所属理事及び支部長の推薦で選出された会員とし、支部長を除いた支部役員を支部社員総会で承認する。
3. 支部役員は、地方会、事業計画・報告、予算・決算、その他支部長の求めに応じて支部運営にあたる。
4. 支部役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(支部監事)

第8条 各支部に支部監事を若干名置く。

2. 支部監事は支部長が候補者を会員から推薦で選出し、支部社員総会で承認する。
3. 支部監事は支部の監査を行い、不正の事実があれば支部社員総会及び日本循環器学会本部に報告する。
4. 支部監事の任期は2年とし、連続して就任できる期数は3期までとする。

(支部幹事)

第9条 各支部に支部幹事を若干名置く。

2. 支部事務局担当幹事およびJCS-ITC担当幹事の設置は必須とする。
3. 支部幹事は支部長が会員から選出する。
4. 支部幹事は支部長を補佐し、役員会/社員総会において会計報告及びJCS-ITC業務の報告等を行う。
5. 支部幹事の任期は支部長の任期に準じ、再任を妨げない。

(支部評議員)

第10条 各支部に支部評議員を置くことができる。

2. 支部評議員は会員から選出する。
3. 支部評議員は支部業務を補佐する。
4. 支部評議員の選出方法/任期/定年等は各支部役員会で定めることとする。

(地方会会長)

第 11 条 各地方会に会長 1 名を置く。

2. 地方会会長は支部役員会の推薦で選出し、支部社員総会において承認する。
3. 地方会会長は地方会を主催し、その経理/事業内容を支部役員会及び支部社員総会に報告する。
4. 地方会会長の任期は、主催地方会にかかる業務が完了するまでとする。

(支部役員会)

第 12 条 支部役員会は、支部役員で構成する。

2. 支部役員会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の承認
 - 2) 地方会会長の選出
 - 3) 支部運営上重要な規則の承認
 - 4) その他本支部の運営に必要な事項の確認 (JCS-ITC 報告など)
3. 予算もしくは事業計画に大幅な変更が見込まれる場合には臨時支部役員会を開催しなければならない。
4. 支部役員会は支部長が招集し議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。
5. 支部役員会は過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部役員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
6. 支部役員会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部社員総会)

第 13 条 支部社員総会は、社員で構成する。

2. 支部社員総会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の確認
 - 2) 決定された支部長の確認
 - 3) 支部役員・支部監事・地方会会長の承認または解任
 - 4) 支部運営上重要な規則の確認
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部社員総会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の互選により選出する。
4. 支部社員総会は支部社員の過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部会員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
5. 支部社員総会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部評議員会)

第 14 条 支部評議員会は、支部評議員で構成する。

2. 支部評議員会は年 1 回以上開催し、以下の事項の報告を受ける。
 - 1) 予算・決算
 - 2) 事業計画および事業報告
 - 3) 地方会会長及び地方会開催地
 - 4) 支部長の選出結果
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部評議員会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。

(支部事務局業務)

第 15 条 支部事務局業務とは、支部役員会、支部社員総会、支部評議員会の運営、各事業の補助等をいう。

2. 支部事務局業務は、原則支部年会費収入の範囲内で収支均衡に努めなければならない。
3. 支部事務局業務にかかる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、支部事務局担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。
4. 各支部は全事業の会計報告を毎月すみやかに本部事務局に報告することとする。

(地方会)

第16条 各支部は地方会を年1回以上開催する。

2. 地方会に演題を提出する者は原則として会員でなければならない。
3. 地方会収支について、原則、収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
4. 地方会において新たな試みを実施する場合は、事前に地方会会長と支部長で協議を行うこととする。
5. 地方会における参加費等の現金取り扱いについて、不正や過誤が発生しない体制を整えなければならない。
6. 地方会の経費精算は、地方会会長もしくは会長が定めた者が内容を確認したうえで実施する。なお全ての精算を原則地方会終了後2ヵ月以内に完了させること。

(JCS-ITC 講習会)

第17条 各支部はJCS-ITC講習会をJCS-ITC担当幹事が計画を取り纏め、開催する。

2. 講習会収支について、原則収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
3. JCS-ITC講習会に関わる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、JCS-ITC担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20万円未満が支部長承認、20万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。

附則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

支部コンプライアンス・倫理規程

(目的)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会全支部（以下「支部」という）におけるコンプライアンスに関し基本となる事項を定め、もって健全で適正な学会運営及び社会的信頼の維持に資することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 1) コンプライアンスとは、法令、各支部の諸規則を遵守することをいう。
- 2) 支部役職者とは、支部に所属する支部長・支部役員・支部監事・支部幹事・地方会会長をいう。
- 3) 支部職員とは、支部の事務を担当する職員をいう。
- 4) コンプライアンス事案とは、支部の構成員にかかわる法令又は定款等の本学会諸規則や支部会則等に違反、または違反するおそれのある事案をいう。

(支部役職者及び支部職員の責務)

第3条 支部役職者・支部職員は、支部の定める理念および目標を実現するため、それぞれの責任を自覚し、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、人権を尊重し、高い倫理観を持って行動しなければならない。

2. 支部役職者・支部職員は、次に掲げることを理由として、自らのコンプライアンス違反行為の責任をのがれることはできない。

- 1) 規程について正しい知識がなかったこと
- 2) 規程に違反しようとする意思がなかったこと。
- 3) 支部の利益に資する目的で行ったこと

附 則

- 1) 本規程は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部運営内規

(総則)

第1条 この内規は、一般社団法人日本循環器学会 支部規程を関東甲信越支部（以下「本支部」という。）において運用するために必要な事項を規定し、円滑な学会活動を推進することを目的とする。

(支部事務局)

第2条 本支部における支部事務局を東京都新宿区笹笥町43 新神楽坂ビル2F 有限会社ビジョンブリッジ内に設置する。

(支部長)

第3条

- 2年毎に行われる理事選出選挙の後、支部規程第6条2項に沿い支部長を決定するが、支部長の任期開始日は7月1日からとする。
- 支部長は日本循環器学会の関東甲信越地区で選出された理事の互選によって決定され、当該年度における本支部の事務を処理する。
- 支部規程第6条の4項に沿い、支部長の任期は2年とし再任を妨げないとするが、本支部における支部長の連続して就任できる期数は2期（通算4年）までとする。
- 支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(副支部長)

第4条 本支部に副支部長を1名を置く。

- 副支部長は支部所属理事の中から協議で決定し、支部社員総会において報告する。
- 支部長に事故あるとき、又は支部長が別の支部へ異動したとき、副支部長を新たな支部長とする。この場合の任期は、退任した支部長の任期に準ずる。
- 副支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を遵守しなければならない。

(支部役員)

第5条

- 支部役員は、支部規程第7条1項に沿い、支部所属理事の他、支部に所属する社員から支部長が推薦した者が務める。
- 支部役員の定数は、本支部においては16名程度とする。内訳としては支部に所属する理事（関東甲信越地区、女性、小児科、外科）とその他の役員とする。
- 支部役員は、関東甲信越地区の理事が推薦する、教授または部長以上の支部所属の社員とし、任期2年で再選は妨げない。関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
- 支部役員は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部監事)

第6条

- 支部規程第8条1項に定める支部監事の定数は、本支部においては2名とする。
- 支部規程第8条2項に定める支部監事の選出について、支部長が候補者を社員から選出することとする。なお独立性を鑑み、支部役員、支部幹事との兼務は不可とする。

4. 監事は本支部の会計その他の事務遂行状況の監査を行うものとする。その任期は2年とし、再任はさまたげない。
5. 支部監事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部幹事)

第7条

2. 支部規程第9条に定める支部幹事は、本支部においては支部事務局担当幹事1名、JCS-ITC 講習会担当幹事1名、ダイバーシティ推進委員会担当幹事1名とし、支部役員との兼務も可能とする。
3. 支部幹事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
4. 支部事務局担当幹事ならびに JCS-ITC 担当幹事は、それぞれの業務における月度毎の収支状況をモニタリングし、予算進捗確認を行わなければならない。予算に対し収支悪化の場合は、対策を検討し支部長へ報告すること。また収支改善の場合は、その資金活用方法について検討し支部長へ報告することとする。
5. 支部幹事は、会員の中から選出することとし、関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
6. 支部幹事は、それぞれの業務において投資（JCS-ITC 講習会用のマネキン、事務局運営用のパソコン等）が必要な場合は、事業計画、予算において明確化し、支部役員会・支部社員総会において発言し、承認を得なければならない。

(支部評議員)

第8条

2. 支部規程第10条に定める支部評議員は、現任の支部評議員の推薦により選出し、支部社員総会において承認する。
3. 推薦人は、支部役員会予定日より15日以前に候補者の推薦書を支部事務局へ提出する。
4. 有資格者でありながら推薦人が見当たらない場合は、支部長が推薦人となることが出来る。
5. 支部評議員の被推薦資格は、以下の3項をすべて満たすこととする。
 - 1) 65歳以下で7年以上日本循環器学会会員であること
 - 2) 講師又は医長以上である者、または、本会学術集会において特別講演講師、教育講演講師、シンポジウム、パネルディスカッション、ファイヤーサイドカンファランスの演者を担当したことがあるもの
 - 3) 本支部地方会において過去5年間に3演題以上発表（共同演者でよい）していること。但し、異動および転籍により関東甲信越支部の会員となった場合は、他支部における演題発表を特例として認める。
また、基礎研究者・外科医・小児科医については別途考慮する。

(地方会会長)

第9条

2. 支部規程第11条に定める地方会会長の選出方法は以下のとおりとする。
 - 1) 資格 : 教授または部長以上の本支部評議員
 - 2) 推薦方法 : 評議員による他薦または自薦に基づき、支部長が提案し支部役員会で選出の上、支部社員総会で承認する。
 - 3) 推薦時期 : 支部役員会開催予定日より15日以前に支部長に推薦書を送付する。
3. 地方会会長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

4. 地方会会長は、「臨床研究の利益相反に関する共通指針の細則」に定められた様式の利益相反の自己申告書を支部長経由で本会へ提出しなければならない。
5. 地方会会長は、地方会開催場所・日程の決定を行う。
6. 地方会の主題および演題の選定および採択は、会長が裁量する。
7. 地方会実施にあたり、会長の推薦にて会長校事務局長を任命してよい。会長校事務局長は、会長からの指示に基づき、地方会運営を補助することとする。
8. 地方会運営にあたる企画会社手数料が過多とならないことを事前に確認しなければならない。
9. 地方会開催にあたり収入の受入れ、費用の精算の為、会長名において専用口座を開設する。口座開設と同時にキャッシュカードを作成する場合は、会長から使用者・保管者を指名し、それ以外のもので利用出来ない体制を構築しなければならない。
10. お届け印、通帳は会長または会長が指名した者が保管する。保管にあたっては必ず施錠し、本人のみが解錠出来る体制としなければならない。

(支部役員会、支部社員総会、関東甲信越地区理事会、支部評議員会)

第10条

2. 支部規程第12条に定める支部役員会は、年1回開催とする。
3. 支部規程第13条に定める支部社員総会は、年1回開催とする。
4. 関東甲信越地区理事による理事会は、年2回開催とする。
5. 支部評議員会は、年3回開催とする

(支部事務局業務)

第11条

2. 支部規程第15条における支部事務局業務は、事務局担当幹事を補佐し、円滑に業務を遂行することを目的として、本業務に従事する人員を支部役員会の承認のもと採用しても構わない。雇用条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。
3. 上記1項の方法以外に、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。(契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。)

(地方会)

第12条

2. 支部規程第16条1項に定める地方会について、本支部は毎年4回地方会を開催する。
3. 地方会の名称は、第〇〇回日本循環器学会関東甲信越地方会とする。
4. 本支部地方会に関する事項は、本会の会告及びその他の手段により会員に広報する。また、その抄録データを本会に提出する。
5. 地方会において市民公開講座及び託児室設置を実施する場合は、本支部より、助成金90万円を地方会事務局に交付する。助成金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
6. 地方会の参加費は要領に別途定めたとおりとするが、参加費を変更する場合は支部役員会での承認を必要とする。
7. 地方会での寄付の受入は、「寄付金取扱規程」に基づき対応する。
8. 地方会における華美な懇親会の開催を禁じる。

9. 地方会当日の現金（参加費）の取扱いにおいて、不正や過誤が発生しないよう関係するスタッフの教育を十分行わなければならない。
10. 地方会経費の精算は、リスク管理の観点から現金での精算を禁じ、原則請求書対応とする。請求書対応が難しい場合は、企画会社・スタッフによる立替精算を行い、後日レシートや領収書をもとに精算する。
11. 地方会終了後、余剰金が発生した場合、支部管轄の地方会口座に振込し、次回以降の地方会補助金とする。その後、口座は解約する。
12. 非会員の招請者、支部役員への待遇については要領に別途定めたとおりとするが、これ以外の対応を行う場合は、支部役員会での承認が必要とする。
13. 地方会時の専門医単位登録について、本会から明示された「単位登録の運営方法について」に沿って対応しなければならない。
14. 地方会演者は、発表時に定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。
15. 本支部地方会会長は、若手循環器専門医の育成を目的として、Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Awardを設け、各賞最優秀演題発表者1名、優秀賞2名を顕彰する。実施要領は別途定めたとおりとする。

（JCS-ITC 講習会）

第13条

2. 年4回のインストラクター一覧更新時に、本会事務局より受領したインストラクター一覧を支部長ならびに幹事に提出すること。
3. JCS-ITC 講習会の事務業務（受講料受付・謝金や立替金の精算 等）については支部事務局において実施する。ただし業務の円滑化を目的として、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。（契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。）
4. コース開催日程は、各支部ホームページに掲載することとする。
5. 業務管理を明確化することを目的として、JCS-ITC 業務専用の口座を開設してよい。専用口座の取扱いについては、要領に別途定めたとおり慎重に行う。
6. コース開催時にコースディレクター等が立替精算をした場合は要領に別途定めたとおりに行い、不必要な経費支出は慎むこと。
7. コース終了後、コースディレクターは参加インストラクター・タスクを一覧化し（以下インストラクター・タスク一覧）、各自立替えしたコース開催地までの交通費を纏め、支部事務局（または外部委託している業者・個人）へ提出しなければならない。また、受講料収益と使用経費を一覧化し、コース毎の収支実績を作成し、合せて支部事務局へ提出する。
8. 各コースディレクターがコースに必要な資金を事前に仮払金として引出して使用する場合は、予め仮払金申請書を作成し、JCS-ITC 幹事のメール承認を要する。
なお、ITC 幹事がコースディレクターとなる場合は、支部長のメール承認を要する。
9. 経費精算において、振込対応では無く、上記の仮払金を活用し現金にて謝金精算や立替精算を行う場合は、必ず受領者から支部宛ての領収書を頂き、証憑として支部事務局へ提出しなければならない。
10. 支部事務局（または外部委託している業者・個人）は、提出されたインストラクター・タスク一覧、旅費申請書、領収書等に基づき、謝金（交通費・宿泊費含む）・立替金の精算を行う。また謝金源泉

税分の納税を行う。（謝金金額についてはJCS-ITC 規定に則る。また旅費申請書、領収書等の証憑が無いものの精算は出来ない。）

11. 支部事務局は、収入・経費を取纏め（漏れが無いこと、経費使用理由等が明確であること等を再確認）の上、本部事務局へ提出し会計ソフトへの入力を依頼する。

（支部委員会）

第14条

2. 支部長は、本支部の事業の円滑な推進を図るため必要があると認めるときは、役員会の決議を経て、委員会を設置することができる。なお、これを廃止する場合も同様とする。
3. 前条の委員会は、必要に応じて部会、小委員会を組織することができる。
4. 委員会は、目的、委員構成、業務などを規定した支部委員会内規を作成し、役員会の承認を得なければならない。
5. 委員会は、委員長1名および委員若干名で組織する。
6. 委員長は支部長が支部役員の中から指名し、役員会の議を経て選任する。
7. 必要に応じて委員の中から副委員長を置くことができる。
8. 副委員長、委員は委員長が指名し、役員会の議を経て選任する。

附則

- 1) この内規は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この内規改正は、支部役員会において審議し、支部社員総会にて決定する。

令和元年9月28日一部改訂
令和2年9月5日一部改訂
令和5年10月1日一部改訂
令和7年9月13日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 学術委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部学術委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、日本循環器学会関東甲信越支部の学術活動を支援することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会の学術面の向上について検討・協議し、役員会および会長に上申する。

2) その他学術活動に対する支援に必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 情報・広報委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部情報・広報・啓発委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、本会のホームページやインターネットを利用した学会員への情報の提供、学術成果の社会への公開と還元、国内外の関連学会の情報提供交換等に関する活動を実施することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 学会のホームページの作成、管理及び運用
- 2) インターネットによる本会の情報サービス
- 3) 国内外の関連学会等との情報交換と広報活動
- 4) その他必要な業務。

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 ダイバーシティ推進委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部ダイバーシティ推進委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、循環器学分野における男女並びに多種多様人材の共同参画の推進を図り、男女並びに多種多様人材の共同参画の視点に立った教育・研究・就業体制を確立するため、企画・立案・実施に当たることを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。
2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。
2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。
1) 国内外の関連学会・団体等との情報交換および連携
2) 地方会でのダイバーシティ推進セッション等の企画立案・実施
3) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 チーム医療委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部チーム医療委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、地方会におけるコメディカルとの関わり方の検討および、コメディカル関係の諸学会との連絡調整を行う。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会におけるコメディカルの位置付けの検討および、コメディカル関係学会との連絡調整をする。

2) 関係諸学会からの依頼に応じて、本委員会において代表の派遣などを選考する。

3) 委員は、関係諸学会への渉外を担当し、外部機関の要請に応じてこれらが主催する会議等に本学会の代表として出席する。

4) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 地方会あり方検討委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部地方会あり方検討委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、地方会を活性化することを目的とし、地方会のあり方を検討・協議し、役員会および会長に上申する。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 若手、女性、メディカルスタッフの参加促進策を検討・協議する。
- 2) 地方会プログラムの充実化を検討・協議する。
- 3) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 予防委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部予防委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、循環器疾患等の予防に関する事柄について、協議・検討し、役員会上申することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) すべての国民の循環器疾患等の予防を推進する業務。
- 2) 予防活動を積極的に推進し、その重要性を社会に発信する業務。
- 3) 循環器疾患等の予防研究の実施ならびに支援。
- 4) その他、循環器疾患等の予防に関する必要な業務。

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

MEMO

MEMO

たった一度の
いのちと
歩く。



KYOWA KIRIN

私たちの志

検索

2019年7月作成

Canon

私たちは、
「いのち」から始まる。

激動する世界で「いのち」の輝きこそが未来への希望であり、前へ進む力であると
キヤノンメディカルシステムズは信じています。

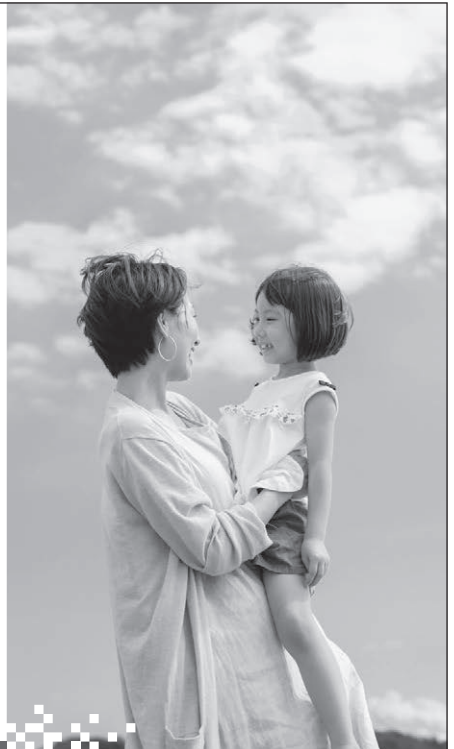
医療機器メーカーである私たちの使命は、尊い「いのち」を守る医療への貢献。
創業以来、つねに医療関係者の方々と手を携え、数々の技術開発に挑んできました。
その想いは、経営スローガン「Made for Life」として、
世界中の社員一人ひとりの胸に変わることなく息づいています。
医療の現場を全力で支え、健康と「いのち」を守る臨床価値を創出するために。
私たちはこれからも“いま”を拓き続けてまいります。

患者さんのために、あなたのために、
そして、ともに歩むために。

Made For life

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 <https://jp.medical.canon>

Z000059-07





新発売

ATPクエン酸リアーゼ阻害剤

処方箋医薬品^{注)}

薬価基準収載



ネクセトール[®]錠 180mg

NEXLETOL[®] tablets 180mg

ベムペド酸錠

注)注意—医師等の処方箋により使用すること

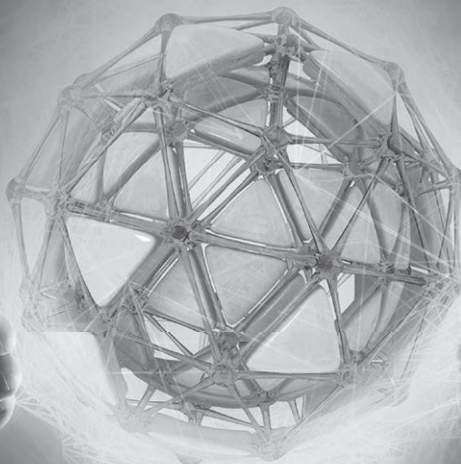
●効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等情報は、電子添文をご参照ください。



製造販売元
大塚製薬株式会社
東京都千代田区神田司町2-9

文献請求先及び問い合わせ先
大塚製薬株式会社 医薬情報センター
〒108-8242 東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー

2025年11月作成
NX2511018



高カリウム血症改善剤

薬価基準収載

処方箋医薬品 (注意 - 医師等の処方箋により使用すること)



ロケルマ[®]懸濁用散分包 5g 10g

ジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム水和物
LOKELMA[®] 5g・10g powder for suspension (single-dose package)

「効能又は効果、用法及び用量を含む注意事項等情報」等については電子化された添付文書をご参照ください。

製造販売元 [文献請求先]

アストラゼネカ株式会社

大阪市北区大深町3番1号 ☎0120-189-115 (問い合わせ先フリーダイヤル メディカルインフォメーションセンター)

AstraZeneca

2024年11月作成



内なる声が、聞こえてくる。

今できることを、患者さんのこれからのために。



ヒト抗PCSK9モノクローナル抗体製剤

薬価基準収載

レパーサ[®] 皮下注140mgペン

エボロクマブ(遺伝子組換え)注
生物由来製品、処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

Repatha

※「効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報」等詳細につきましては、電子添文をご参照ください。

製造販売 アムジェン株式会社
東京都港区赤坂九丁目7番1号

【文献請求先及び問い合わせ先】メディカルインフォメーションセンター 0120-790-549

2026年2月作成
EVO266010RM1



高脂血症治療剤

薬価基準収載

パルモディア[®] XR 錠 0.2mg
0.4mg

PARMODIA[®] XR TABLETS 0.2mg・0.4mg (ペマフィブラート徐放錠)

処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること



選択的SGLT2阻害剤 -2型糖尿病治療剤-

薬価基準収載

デベルザ[®] 錠20mg

DEBERZA[®] (トホグリフロジン水和物錠)

処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌を含む注意事項等情報」等については電子添文をご参照ください。



製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先)

興和株式会社

東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

2025年4月作成



オレキシン受容体拮抗薬 一不眠症治療薬一

薬価基準収載

ボルズイ錠 [®] 2.5mg
5mg
10mg



習慣性医薬品(注意一習慣性あり)
処方箋医薬品(注意一医師等の処方箋により使用すること)

Vorzzz[®] tablets 2.5mg/5mg/10mg

ボルノレキサント水和物製剤

効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等情報等については電子添文を参照ください。

®大正製薬株式会社登録商標



製造販売【文献請求先】
大正製薬株式会社
〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1
お問い合わせ先: ☎ 0120-591-818
メディカルインフォメーションセンター

meiji

販売【文献請求先】
Meiji Seika ファルマ株式会社
〒104-8002 東京都中央区京橋2-4-16
<お問い合わせ先>
<すり相談室 ☎ (0120) 093-396

2025年11月作成